

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

令和2年度

[令和3年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

2020年度（令和2年度）は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大・蔓延により、世界中が甚大な影響を受けました。日本においても、緊急事態宣言の発令による外出自粛、テレワークの導入推進、出張や私事による移動制限、多人数での会食自粛など、今までに経験したことのない生活を余儀なくされました。教育機関においては、全国一斉休業、キャンパス閉鎖となる中で、オンライン授業の開始や困窮学生への支援など、迅速な対応が迫られた年でもありました。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、第1期（平成22年度～26年度）・第2期（平成27年度～令和元年度）を通じて、高等教育の質を高める専門家の育成を目的としたFD／SD／IRプログラムの開発・提供に取り組みました。これらの継続的な取組が評価され、令和元年8月には3度目の認定を受け、令和2年4月に第3期（令和2年度～6年度）がスタートしています。第3期拠点事業においては、個々の教職員に対する支援に留まらず、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発支援」を重視した取組を行うことを目標としました。

その中で今年度は、コロナ禍における本拠点事業のあり方を模索し、当初の計画を変更しながらも、オンラインでの研修を多く取り入れるなど、可能な限りの工夫を凝らして実施しました。9月に名古屋での開催を予定していたSDコーディネーター養成講座、IRer養成講座は、10月と12月にそれぞれオンラインで開催し、全国の多数の参加者から、好評を得ることができました。他の拠点とも連携し、新たな試みに挑戦した年になったのではないかと考えます。

ここに、教職員能力開発拠点の今年度の活動をまとめた年次報告書をお届けします。異例づくめの年ではありましたが、私たちにとっては、多くの新たな気づきを得られた年でもありました。本拠点の活動内容や成果を広く皆さまに報告し、自らを省みることで、今後の活動に活かしていきたいと考えております。

本拠点事業を通じて、教育の質向上へと繋がる人材育成の輪がより広がっていくよう、一層尽力して参ります。今後とも、本拠点へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人愛媛大学長

大橋 裕 一

コロナ禍の対応について

新型コロナウイルス感染症の拡大は、これまで対面開催していた研修を同じように実施することができず、オンラインでの開催を余儀なくされるなど、本拠点事業にも様々な影響を及ぼした。今後も、対面と遠隔型を組み合わせたハイブリッドな研修形態を確立するなど、早急な対応が課題となっている。このような状況下にあった令和2年度の本拠点での主な対応を、次のとおり特記する。

FD／SD／IR推進の専門家・指導者養成

SDコーディネーター養成講座とIRer養成講座について、予定を変更してオンライン（Zoom）で10月と12月に開催した。開催前には、通信を含む受講環境を整えるための事前周知や研修冊子の配布等、受講者の不安や混乱を減らす働きかけを行った。当日は、冒頭にスタッフからZoomの使用方法、通信が途切れた場合の対処方法及び緊急連絡先など「受講上の注意」を説明した。また、研修中も即時対応できるようオンライン内にスタッフが常駐し、受講生にきめ細かいサポートを行い、円滑な進行に努めた。講義は対面開催と遜色ないよう、特にワークの方法等に工夫を凝らし実施した。

両講座とも全国から多数の参加希望があり、研修後の受講者アンケートでは、「遠方からでも移動せず容易に参加できたのが良かった」「オンラインの不便さを感じる技術的な不具合はなく、万全に準備されていた」と好評を得た。一方で「ブレイクアウトルーム内でのグループワーク進行が、対面に比べ難しく感じた」「Zoomを立ち上げたまま、パソコン上でその他の作業を行うことは難しかった」という意見もあり、今後の課題も確認できた。

研修プログラムの提供／研修講師派遣

遠隔型の研修を中心に、高等教育機関等へ講師派遣を40件行った（令和3年2月末現在）。今年度は、昨年、文部科学省から公表された「教学マネジメント指針」の理解を深め、内部質保証の取組を推進することを目的とした研修を開催するなど、第3期拠点事業の重点取組である「組織開発支援」に特に注力した。また、遠隔授業の方法や効果的な評価方法など、コロナ禍において現場で即時に活かせる講義も開催した。

情報発信

コロナ禍における大学教育の取組についての研究論文や事例報告8本を含む、論文24本が投稿された「大学教育実践ジャーナル第19号」を発刊した。現在は「臨時増刊」として、本学全体、各学部・研究科で実施された授業や学生支援での様々な取組を特集した同ジャーナル第20号を編集中である。

令和2年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
	(1) 組織概要	1
	(2) スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
	(1) 教職員能力開発拠点の認定について	4
	(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について	5
	(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について	7
3	令和2年度の事業報告	
	(1) 令和2年度事業の総括	9
	(2) 令和2年度活動実績	
	Ⅰ. FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援	11
	Ⅱ. FD/SDモデルの構築と普及	19
	Ⅲ. FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働	44
参考資料		
	①愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規	48
	②愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項	50
	③愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	53
	④愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	54
	⑤共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	55

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（内規第4条及び第10条） ※P. 48～49参照

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究等に関すること。
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
3. 授業評価及びシラバスに関すること。
4. 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
5. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
6. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
7. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

教育企画室各部門について

教育・学習支援部門

主に教職員の能力開発を通して教育活動及び学習活動の支援を行っている。教員の能力開発としては、授業の改善、カリキュラムの改善、組織の整備・改革という3つのレベルにおいて、ワークショップ、セミナー、授業コンサルテーション、教育コーディネーター研修会などを実施している。職員の能力開発としては、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で専門分野別及び階層別のSDのプログラムやサービスを提供している。

教育調査・分析部門

主に教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行っている。新入生や卒業予定者等へのアンケートの調査結果を分析することで全学的な教育改善及び情報公開を行っており、調査結果の報告は「IRレポート」にまとめ、学内関係者に届けている。また、調査結果から想定される課題、他大学も含めたIRに関わる取組などを「教育企画室ニュースレター」に掲載して情報発信をしている。

学生能力開発部門

主に学生の能力開発を知性と人間性の両側面から支援する教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。その代表的な取組が、学生のリーダーシップを高める「愛媛大学リーダーズ・スクール」である。また、スタディ・スキル講座等のプログラム開発、学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）の運営、大学院生の能力開発を目的としたTA研修、附属高校のキャリア教育支援等を実施している。

沿革

- 1993年：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置される。
- 2001年：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年：大学教育総合センター（省令施設）となる。
センター内にできた教育システム開発部が、FDを担当する。
- 2004年：教育・学生支援機構の設置に伴い、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）に名称を変更する。
- 2006年：教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が、それぞれ共通教育センターと教育企画室に改組される。
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に、本学教育・学生支援機構から申請していた「FD/SD/TAD三位一体型能力開発」（代表：教育・学生支援機構 教育企画室長 高瀬恵次教授）が採択される。
- 2008年：「戦略的大学連携支援事業」に、本学が代表校となり申請した「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』による大学の教育力向上」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤浩章准教授）が採択される。
- 2010年：「教職員能力開発拠点」（代表者：小林直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の認定を受ける。
- 2012年：「大学間連携共同教育推進事業」に、本学が代表校となり申請した「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 秦敬治教授）が採択される。
- 2014年：平成27年度以降も引き続き、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成27年4月1日～令和2年3月31日）として、文部科学大臣からの認定を受ける。
- 2019年：令和2年度以降も引き続き、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）として、文部科学大臣からの認定を受ける。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<教員 スタッフ>

氏 名	所 属・職 名	専 門
小林 直人 - KOBAYASHI Naoto	学長特別補佐（教育）， 教育・学生支援機構副機構長， 教育企画室長，医学部教授	医学教育カリキュラム， 学生の自己学習への支援，FD 等
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	教育企画室副室長，教授	高等教育論，人材育成論 （SDC資格取得者）
村田 晋也 - MURATA Shinya	教育企画室 講師	組織論（FD），リーダーシップ論， 人的資源管理論
仲道 雅輝 - NAKAMICHI Masaki	教育企画室 講師	インストラクショナルデザイン， 教育工学，FD，e-learning （SDC資格取得者）
竹中 喜一 - TAKENAKA Yoshikazu	教育企画室 講師	高等教育論，教育工学 （SDC資格取得者）
上月 翔太 - KOZUKI Shota	教育企画室 特任助教	高等教育論，西洋古典文学
阿部 光伸 - ABE Mitsunobu	学生支援センター 講師	SD，高等教育政策，産業教育論 （SDC資格取得者）
高橋 平徳 - TAKAHASHI Yoshinori	教職総合センター 准教授	生涯学習論，人的資源管理論
丸山 智子 - MARUYAMA Tomoko	学生支援センター 講師	教育開発，リーダーシップ， プロジェクト・マネジメント （SDC資格取得者）

<事務 スタッフ>

氏 名	所 属・職 名
吉田 一恵 - YOSHIDA Kazue	教育学生支援部 愛媛大学SD統括コーディネーター， 能力開発室長（SDC資格取得者）
織田 隆司 - ORITA Ryuji	教育学生支援部 教育企画課長 （SDC資格取得者）

※教育学生支援部教育企画課において事務局業務を実施

2. 教職員能力開発拠点について

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価されたことにより、平成26年7月に5年間の認定が継続され、令和元年8月にも同じく5年間の認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

◎拠点名：教職員能力開発拠点

◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関

◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

平成27年4月1日～令和2年3月31日（5年間）（再認定）

令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）（再々認定）

◎代表者名：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構副機構長 教育企画室長）

【参考】本拠点以外の「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」に係る拠点（令和2年度）

施設名	拠点名
北海道大学 高等教育研修センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点－教育の内部質保証を担う大学教職員の能力向上プログラムの開発－
東北大学 高度教養教育・学生支援機構	大学教育イノベーション人材開発拠点
筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター	ダイバーシティ&インクルージョン教育拠点
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点
千葉大学 大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学 アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点
岐阜大学 医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点
名古屋大学 高等教育研究センター	質保証を担う中核教職員能力開発拠点
山口大学 知的財産センター	知的財産教育研究共同利用拠点
九州大学 基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点
熊本大学 教授システム学研究センター	教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター	理工学教育共同利用拠点
帝京大学 高等教育開発センター	FD推進共同利用拠点～グローバルなFD研修プログラムとポートフォリオを活用した成果評価手法の開発～

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

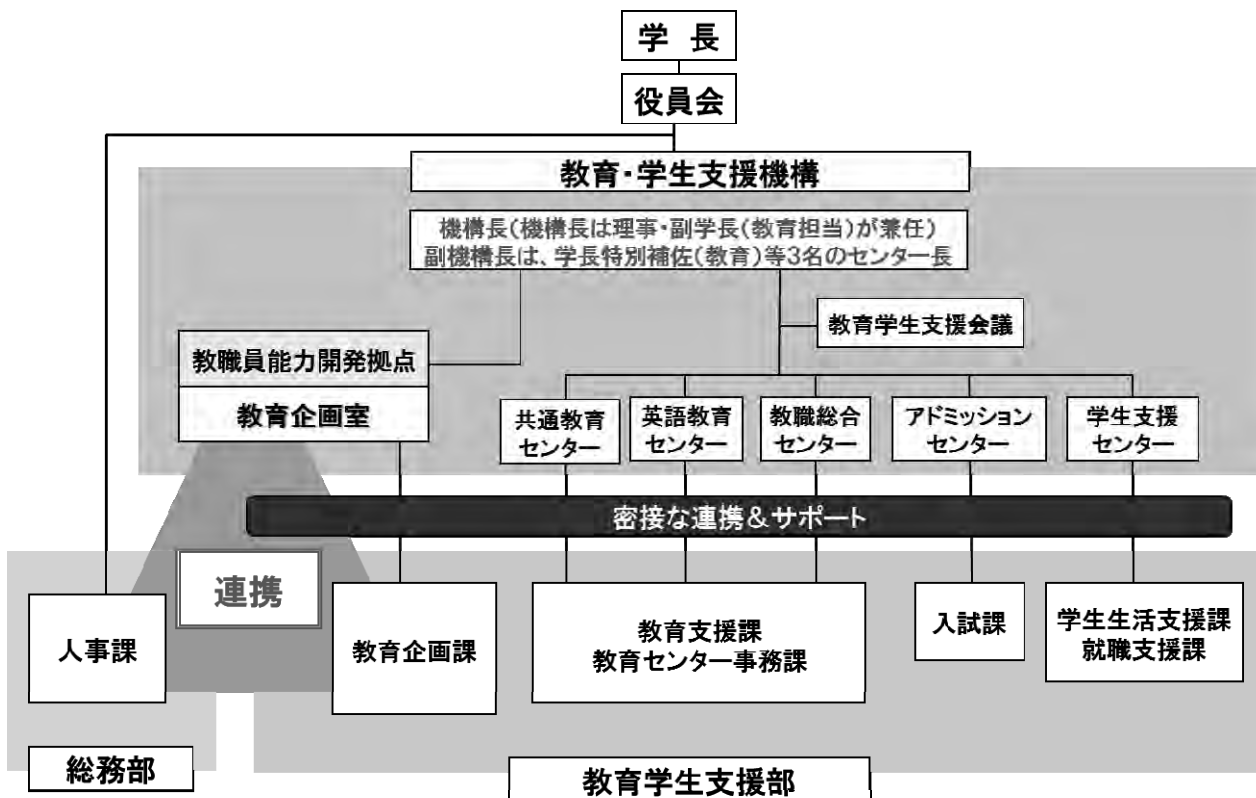
教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。



教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.53, P.55参照）。

令和2年度以降の認定継続を受け、令和2年7月に同委員会において、「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した（次頁参照）。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.54, P.55参照）

教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAED）、大学教育イノベーション日本（HEIJ）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会、他の教育関係共同利用拠点等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。

(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について

令和2年度以降の認定継続を受け、令和2年7月に「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

令和2年7月15日
共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業の目的は、全国の大学の教職員能力開発の質向上に寄与することにある。第3期（令和2年度～6年度）は、第1期～第2期（平成22年度～令和元年度）までの取組をさらに発展させ、研修プログラムの提供による個々の教職員の能力開発支援だけでなく、教育改善に関する専門家・指導者の養成や本拠点が開発したFD/SDモデルの提供などを通じ、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発（OD：Organizational Development）」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指す。

2. 事業内容

教職員能力開発拠点（以下「拠点」という。）は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ① 専門家・指導者養成と支援
 - ✓ FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者の養成 等
- ② FD/SDモデルの構築と普及
 - ✓ 研修プログラムの開発・公開、情報発信、相談対応 等
- ③ 大学間連携ネットワークとの協働
 - ✓ 他拠点等との協働による研修会の実施 等

3. 実施体制

- ✓ 外部有識者が過半数の共同利用運営委員会を置き、開かれた運営を行う。
- ✓ 教育企画室（教員組織）と教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課（事務組織）が連携・協働して事業を行う。

令和2年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成、本拠点が開発したFD/SDモデルの提供や個別相談も含めた長期的なサポート等、各組織の自律的な教育改善を支援するための以下の事業を行うほか、他拠点やコンソーシアム等との連携を強化し、大学間連携ネットワーク等への講師派遣・運営支援を積極的に行う。これらの取組を通して、当拠点第3期の5年間（令和2～6年度）で延べ250機関の組織開発（OD：Organizational Development）支援を行うことにより、全国の大学の教職員能力開発の質向上を牽引する。

◇事業内容

I FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援

自大学において教育改善を推進できるファカルティ・ディベロッパー（FD推進の専門家）、SDコーディネーター（SDの実践的指導者）、IRer（IR推進の専門家）、カリキュラム・コーディネーター（カリキュラム開発の専門家）を養成するための研修を実施する。各受講者の状況に応じた組織開発支援を行うため、受講者の現状分析・実行計画の策定（個別メンタリングを含む）を行うほか、研修会終了後も受講者に対する継続的な支援及び成果測定を実施し、個人の行動変容と組織開発に関する把握・分析を行う。

令和2年度は、「IRer/SDコーディネーター養成講座」の開催を予定している。

II FD／SDモデルの構築と普及

全国の大学が自立してFD／SD活動を行うため、主として自大学の教育改革を主導・指導する教職員に対して、本拠点が開発したFD／SDモデルを提示して組織開発支援を行う。具体的には以下に挙げる支援を行い、各種活動の組み合わせや組織開発につながるコンサルティング、複数回の支援を重視し、その場限りの対応とならない長期的な支援を行う。

・研修プログラムの提供

設置形態や組織の規模等にとらわれない、全国の高等教育機関で活用できる基礎的なFD／SDプログラムを提供する。さらに、大学の質保証の根幹となるカリキュラムの編成や評価に関するプログラムを新たに開発する。

・研修講師派遣

多種多様なメニューや経験豊富なスタッフを揃え、引き続き全国の高等教育機関のニーズに合う研修講師を派遣する。事前に「研修ニーズアンケート」を行うなどして、ニーズの把握に努める。

・情報発信／訪問対応

ニュースレターやポスターによる情報発信を行うほか、愛媛大学の取組事例や各種プログラムの紹介、全国の高等教育機関のFD／SD／IR／カリキュラム開発に関する個別相談・訪問対応等を行う。

III FD／SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

他拠点やコンソーシアム等との連携を強化し、大学間連携ネットワーク等への研修講師派遣・運営支援をさらに積極的に行う。

令和2年度は、名古屋地区の大学間連携ネットワークとの協働による研修会を実施するほか、日本高等教育開発協会が開催する研修事業などに講師を派遣する。さらに、教職員能力開発拠点所属教員が代表を務めている大学教育イノベーション日本の活動等を通じて、教育関係共同利用拠点として認定を受けた他の組織や大学間連携により大学教育の開発を進める組織との連携を推進する。

3 令和2年度の事業報告

(1) 令和2年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、令和元年8月に教育関係共同利用拠点として3度目の認定を受け、令和2年4月に第3期教職員能力開発拠点の事業をスタートさせた。コロナ禍により異例づくめとなったが、オンライン研修を取り入れるなどして、可能な限り工夫して事業を実施した第3期1年目となった。以下、今年度の取組状況を総括する。



① FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援

今年度は、SDとIRについて、9月に名古屋で対面開催することとしていたが、予定を変更し、それぞれオンライン（Zoom）で開催した。

10月23日～24日開催のSDコーディネーター（SDC）養成講座には、全国から16名の参加があり、SD、SDCについて学ぶとともに、実際にSDプログラムを企画するワークを行った。

また、12月18日～19日開催のIRer養成講座には定員を大きく超える申込があり、関心の高さやオンライン開催の利点を改めて認識した。オンラインでのワークの方法等を考慮して受講者数を調整し、33名での開催となったが、IRの課題解決に的を絞ったワークを行うなど、好評を得た。

どちらも初めてのオンライン開催であったが、対面開催と遜色ない内容となり、今後の効果的な研修のあり方を検討する上で参考となる実践例になった。

② 研修プログラムの提供

コロナ禍のため、対面からオンライン開催に変更するなどして全12プログラムを提供し、学内外から269名（3月8日現在）の参加があった。オンラインならではの良さに気づいたとの意見も多くあったが、一方でやはり対面開催を望む意見もみられた。また長時間の受講により「耳や頭が痛くなる」「目が疲れる」等の身体的な苦痛の声もあり、今後のオンライン研修の設計課題となった。なお、研修内容については高い満足度を得ることができた。

③ 研修講師派遣

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、今年度は30機関に対し、40件の講師派遣を行った(令和3年2月末現在)。複数回の派遣を行っている機関も少なくなく、研修講師や研修内製化のためのアドバイスを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。そのほとんどが遠隔での実施であったが、オンライン授業に関する研修も依頼されるなど、コロナ禍の状況に即した講師派遣となった。

④ 情報発信

教育企画室ニュースレター「IRNews第8号」を作成し、愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信した。

また教育・学生支援機構として、コロナ禍における大学教育の取組についての研究論文や事例報告を含む「大学教育実践ジャーナル第19号」も発刊した。さらに「臨時増刊」として、本学全体、各学部・研究科で実施された授業や学生支援での様々な取組を特集した第20号を編集中である。

⑤ FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

12月に開催したIRer養成講座については、名古屋大学高等教育研究センター(質保証を担う中核教職員能力開発拠点)を共催とし、協働して取り組んだ。また、全国規模のネットワーク組織で本拠点の教員が役員を務めるなど、連携を図っている。それらのネットワーク組織等には講師派遣も行い、大学教育の開発を進める組織等との連携を深めている。

おわりに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年度から2期10年にわたり、教育関係共同利用拠点(教職員能力開発拠点)として各事業に取り組んで参りました。さらに、令和元年8月には3度目の認定を受け、今年度、11年目を迎えました。関係者の皆さまには、これまで本事業にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

第3期は、「組織開発支援」に特に注力し、各組織が自立して教職員能力開発を行うことができるよう、その支援に取り組んでおります。今年度は、コロナ禍により活動に制限がありましたが、教職員の学びも止めることがないよう前進し、それによって多くの気づきも得られました。今後も本拠点の教職員一丸となって、また他大学や関係機関との連携を図り、高等教育の発展に努めて参ります。引き続き、本事業にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

教職員能力開発拠点 代表

小林 直人(愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長)

(2) 令和2年度活動実績

I. FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援

各大学等において自立的にFD、SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点では、第1～2期からFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成に重点的に取り組んでおり、今年度は対面開催が難しい中、他拠点と連携して、SD/IRの分野について各2日間の日程でオンライン開催した。これらの講座では、知識や実践的なスキルを習得するだけでなく、オンライン上でのグループワークなどを通して参加者がともに学び合ったり、悩みを共有したりするなど、積極的に取り組む姿が見られた。さらに第3期の取組として、受講者の行動変容や所属組織改善への取組等について、事後アンケートやフォローアップ等を通じた質的分析を行っている。

また、第3期の新規事業であるカリキュラム開発の専門家・指導者養成については、講座開講に向けての準備を進めており、予定通り次年度から開催していく。

a. SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では、職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター（SDC）」と称しており、今年度は学外者2名を含む4名を新たにSDCとして資格認定した（詳細はP.50参照）。これまでのSDC資格認定者は33名にのぼり、それぞれが自校及び学外でのSD推進に貢献している。SDの実践的指導者養成の取組が着実に成果を伸ばしており、今後も継続して取り組んでいく。

SDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SDの実践的指導者）とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、以下4点を担うことのできるSD実践的指導者

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準

1. 高等教育機関のスタッフ・ディベロップメントの推進に対する意欲と展望を有している。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
3. 高等教育機関における職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法を修得している。
4. スタッフ・ポートフォリオ※を作成する職員に対するメンター経験を有している。
5. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有している。

※スタッフ・ポートフォリオとは、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）が開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 10月23日（金）～24日（土）開催 SDコーディネーター（SDC）養成講座

本講座は、職員の能力開発の実践的指導者に求められる能力や役割を理解し、実際にSD推進に活用できる具体的手法の習得を目的としている。今年度は、本講座初のオンライン開催となり、全国から16名（職員15名、教員1名）の参加があった。参加者は、人材育成ビジョンやキャリア開発についての知識・手法を学んだ後、SDプログラムの企画、運営、評価の基本を学び、実際にSDプログラムを開発するワークに臨んだ。2日目午後には、開発したSDプログラムをブラッシュアップした後に発表を行い、2日間の成果を共有することができた。

<プログラム構成>

◆組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

自大学における人材育成ビジョンの構築を目指す。例えば、求める職員像や職員のキャリア開発、キャリア形成のために、組織としてどのようなビジョンが必要であるか等を学ぶ。

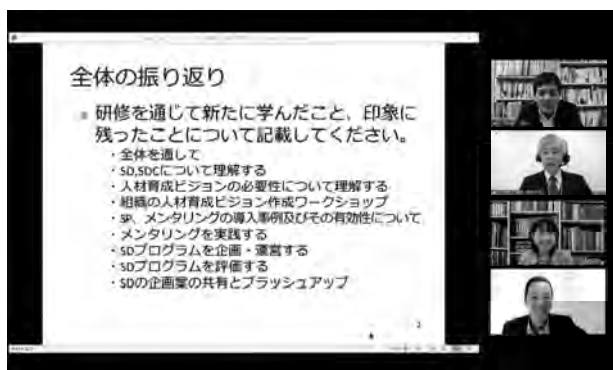
◆キャリア開発手法

参加者が自らのスタッフ・ポートフォリオを作成し、ワークショップを通じて職員としての理念・ビジョンを整理し、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学ぶ。

◆SDプログラム企画・運営・評価手法／SDプログラム開発ワークショップ

SDプログラムを企画・運営・評価するための手法を学ぶ。さらに、ワークショップを通じて開発したSDプログラムについて発表を行い、全体で共有を行う。

※受講者は事前課題としてスタッフ・ポートフォリオを作成



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 87.5%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・SDについて体系的な学びを得られた。
- ・他大学の方と企画や問題点を共有でき、また取り組むべき課題が明確化された。
- ・ワークも充実していて、オンラインでの研修が活発にできた。
- ・SD企画案作成でのカウンセリングで大変参考になるアドバイスをいただいた。

b. IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（IRer）を養成するための講座を開講している。本講座は、平成26年度に福岡で初めて開催し、以降隔年での開催を計画していたが、近年のIRへの関心の高さから、平成28年度以降、毎年開催している。

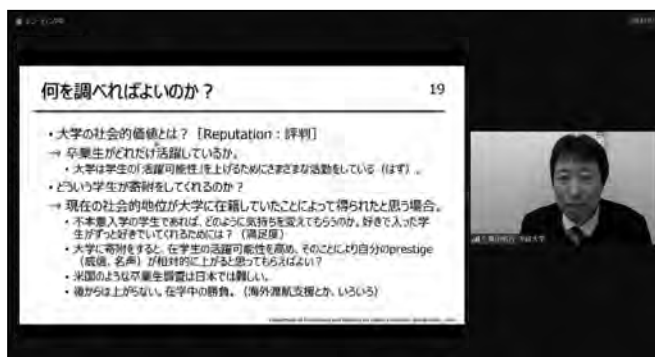
IRer（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは
教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家。

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

■ 12月18日（金）～19日（土）開催 IRer養成講座

本講座は、IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるIRの実務を推進または改善するための具体的手法を身につけることを目的としている。今年度はコロナ禍のためにオンラインで開催したが、全国から定員を大幅に超える申込があった。参加者は33名（教員10名、職員23名）となり、IRerに必要とされる基本的な知識や質的・量的データの分析方法等の具体的なスキルを習得し、さらに、分析結果をもとにした改善策の提案や発表までの一連のプロセスを踏んで理解を深めた。

また、講師との質疑応答にオンラインツール「Padlet」を用いるなどして、対面開催と遜色なく交流できるよう促した。参加者からは、「課題解決への糸口だけでなく、IR担当組織の在り方についても学ぶことができた。」等、高い評価をいただくとともに、グループワークにより参加者間の交流を深め刺激を受けることができた」と好評を得た。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- IRの基本的な部分から管理者への報告まで具体的かつ実践的な内容を学ぶことができた。
- グループセッションが多く、様々な状況や考えに触れることができた。
- 各参加大学の規模、IR組織の状態によって異なる課題に合わせたアドバイスをいただいた。
- コロナ禍で既存の仕事を改訂しなくてはいけない場面が多かったもので、どういう調査分析をどういうシーンで使用するのかという具体的な処方箋に触れていただき、とても助かりました。

令和2年度 SDコーディネーター養成講座(オンライン) 日程表

	8:30	9:00	9:40	10:10	10:20	11:30	12:30	13:50	14:00	15:10	15:20	16:30	16:40	17:30
1日目 10月23日 (金)	受付・Zoom接続確認	【オリエンテーション】 【SD,SDCについて理解する】 講師:愛媛大学 小林直人 愛媛大学 竹中喜一	【人材育成ビジョンの必要性について理解する】 講師:愛媛大学 吉田一恵	休憩	【組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ】 講師:愛媛大学 吉田一恵	休憩	【組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ】 講師:愛媛大学 吉田一恵	休憩	【SP,メンタリングの導入事例及びその有効性について】 講師:愛媛大学 山浦久美子 愛媛大学 進藤千晶	休憩	【メンタリングを実践する】 講師:青森中央学院大学 横山浩一	休憩	【演習:SDの企画案の共有】 講師:全講師 (進行:竹中喜一)	(終了)
2日目 10月24日 (土)	受付・Zoom接続確認	【SDプログラムを企画・運営する】 講師:愛媛大学 竹中喜一			休憩	【SDプログラムを評価する】 講師:愛媛大学 竹中喜一	【演習:SDの企画案の個別相談と修正】 講師:全講師 (進行:竹中喜一)	休憩	【演習:SDの企画案の個別相談と修正】 講師:全講師(進行:竹中喜一)			【演習:SDの企画案(修正版)の共有】 講師:全講師 (進行:竹中喜一)	振り返り クロージング	(終了)
	8:30	9:00		10:20	10:30	11:30	12:30	13:30		15:30		16:30	16:55	17:00

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

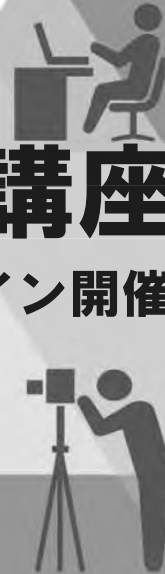
令和2年度 IRer養成講座(オンライン) 日程表

	8:30	9:00	9:20	10:50	11:00	11:50	12:50	14:20	14:30	15:30	15:40	16:40	17:00	
1日目 12月18日 (金)	受付・Zoom接続確認	オア開 イ会 エ接 ン移 テ レ イ シ ク ・ ヨ ン 講師:愛媛大学 小林直人 愛媛大学 竹中喜一	【IRの意義と方法を理解する】 講師:愛媛大学 中井俊樹	休憩	【アセスメントプランを作成・運用する】 講師:愛媛大学 竹中喜一	休憩	【調査の企画とデータ収集を行う】 講師:名古屋大学 丸山和昭	休憩	【実務担当者の分析事例】 講師:茨城大学 葛田敏行	休憩	【管理者が求める報告のポイントとは】 講師:愛媛大学 小林直人	【IRに関する質疑応答】 講師:全講師	(終了)	
2日目 12月19日 (土)	受付・Zoom接続確認	前日の振り返り 講師:全講師	【量的データを分析する】 講師:名古屋大学 丸山和昭	休憩	【質的データを分析する】 講師:名古屋大学 中島英博	休憩	【IRの課題解決を検討する】 講師:全講師			振り返り 閉会挨拶 講師:愛媛大学 中井俊樹	(終了)			
	8:40	9:00	9:10	10:40	10:50		12:20	13:20				17:10	17:25	17:30

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

SDコーディネーター (SDC)養成講座

オンライン開催



2020年10月23日(金)～24日(土)

参加費
2,000円

対象 SDを担当する教職員，SDコーディネーターに関心のある教職員

※2日間全プログラムの参加が可能でインターネット接続や参加者同士の対話に支障のない環境で参加できる教職員の方に限ります。

お申し込み

7月22日(水) 正午～9月9日(水) 正午

先着18名

- ▶定員人数に到達次第，募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後，確認メールを送信します。いただいた情報は，本講座以外に使用することはありません。
- ▶参加費の支払い方法について
研修終了後(11月中)に，申込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら，期限までにお支払いください。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

実施目的

職員の能力開発(SD)の実践的指導者(SDコーディネーター/SDC)になるため，その役割や求められる能力を理解し，実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています

到達目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために，その構築手法を修得することができる
3. 自らのキャリアを開発するために，スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
4. 職員のキャリア開発を支援するために，メンタリングを行うことができる
5. SDの実践力を身につけるために，SDプログラムを企画・運営・評価することができる
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し，共に学び合う雰囲気をつくること

主催/愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

講師

- 小林直人 (愛媛大学 学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授)
中井俊樹 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授 SDC)
竹中喜一 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師 SDC)
吉田一恵 (愛媛大学 愛媛大学SD統括コーディネーター／能力開発室長 SDC)
横山浩一 (青森中央学院大学 総務課 リーダー)
山浦久美子 (愛媛大学 総務部人事課人事・人材育成チーム チームリーダー)
進藤千晶 (愛媛大学 教育学生支援部教育企画課教育企画チーム サブリーダー)

スケジュール

- 8:30 受付・接続確認
9:00 オープニング
9:30 オリエンテーション
SD, SDCについて理解する [竹 中]
10:00 人材育成ビジョンの必要性について理解する [吉 田]
10:40 組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ [吉 田]
(うち, 1時間休憩)
14:10 SP, メンタリングの導入事例及び
その有効性について [山浦・進藤]
15:30 メンタリングを実践する [横 山]
16:40 演習: SDの企画案の共有 [全講師]
17:30 終了

1日目

事前課題

- 1 **スタッフ・ポートフォリオの作成**
*受付完了後, 様式をお送りします。
- 2 **自大学で実施しているSDについて, 新たに企画したいものや現状の改善を図りたいものを考えるワークシートの提出**
*受付完了後, 様式をお送りします。
*当日, ワークシートの内容について3分程度で発表いただきます。
- 3 **SDに関する論考の閲覧**
*受付完了後, 論考をお送りします。
*当日までに閲覧してください。

2日目

- 9:00 SDプログラムを企画・運営する [竹 中]
10:30 SDプログラムを評価する [竹 中]
11:30 演習: SDの企画案の個別相談と修正 [全講師]
(うち, 1時間休憩)
15:30 演習: SDの企画案(修正版)の共有 [全講師]
16:30 振り返り
16:55 クロージング
17:00 終了

- ▶提出期限: 10月5日(月)
▶提出先: kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL: 089-927-9154
mail: kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

本事業の目的は, 全国の大学教職員能力開発の質向上に寄与することにあります。第3期(令和2年度～6年度)は, 第1期～第2期(平成22年度～令和元年度)までの取組をさらに発展させ, 研修プログラムの提供による個々の教職員の能力開発支援だけでなく, 教育改善に関する専門家・指導者の養成や本拠点が開発したFD/SDモデルの提供などを通じ, 全国の大学のカリキュラム, 制度, リーダーシップ等の改善に向けた支援, すなわち「組織開発(OD: Organizational Development)」支援に取り組み, 各組織における自律的な教育改善の促進を目指します。この目的を達成するため, 「①専門家・指導者養成と支援, ②FD/SDモデルの構築と普及, ③FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働」の3つの取組を重点項目として位置づけています。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

IRer養成講座

(オンライン開催)



日程：令和2年12月18日(金)～19日(土)
参加費：2,000円



到達目標

1. IRの意義と方法について説明できる
2. 学習成果を評価するための方針について説明できる
3. 学生にかかわるデータを分析し報告するための方法を説明できる
4. 所属大学におけるIRの改善提案ができる
5. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくること
ができる

実施目的

IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や報告に関する実践的な知識とともに、所属大学におけるIRを改善するための具体的手法を身につけることを目的としています。

お申し込み

先着30名

令和2年10月12日(月) 正午～10月30日(金) 正午

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。
なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
お申し込み後にキャンセルされた場合も、参加費は請求させていただきます。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

参加対象：IRを担当する教職員（IRの経験が1年以上10年未満の者）

- ※2日間全プログラムの参加が可能で、ネット接続や参加者同士の対話に支障のない環境で参加できる教職員の方に限ります。
- ※カメラおよびマイクの利用が可能で、ZoomおよびMicrosoft Excel等表計算のできるソフトウェアがインストールされているPCを必ずご準備ください。
- ※全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
- ※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。
- ※同一機関からのお申し込みが多数の場合は、お申し込み状況により調整させていただくことがあります。

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

共催

名古屋大学高等教育研究センター（質保証を担う中核教職員能力開発拠点）

- ゲスト講師** 畠田 敏行（茨城大学 全学教育機構総合教育企画部門 准教授）
- 講師** 小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授）
 中井 俊樹（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授）
 中島 英博（名古屋大学 高等教育研究センター 准教授）
 丸山 和昭（名古屋大学 高等教育研究センター 准教授）
 竹中 喜一（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師）

スケジュール

1日目 12/18 (金)

- 8:30 受付開始・接続確認
 9:00 開会挨拶 [小林]
 9:05 アイスブレイク・オリエンテーション [竹中]
 9:20 IRの意義と方法を理解する [中井]
 10:50 休憩
 11:00 アセスメントプランを作成・運用する [竹中]
 11:50 休憩
 12:50 調査の企画とデータ収集を行う [丸山]
 14:20 休憩
 14:30 実務担当者の分析事例 [畠田]
 15:30 休憩
 15:40 管理者が求める報告のポイントとは [小林]
 16:40 IRに関する質疑応答 [全講師]
 17:00 終了

2日目 12/19 (土)

- 8:50 接続確認
 9:00 前日の振り返り [全講師]
 9:10 量的データを分析する [丸山]
 10:40 休憩
 10:50 質的データを分析する [中島]
 12:20 休憩
 13:20 IRの課題解決を検討する [全講師]
 17:10 振り返り [全講師]
 17:25 閉会挨拶 [中井]
 17:30 終了

事前課題 ※ 提出資料は参加者に配付し共有します。

所属大学におけるIRの取組と、解決したいと考えるIRの課題に関するワークシート

提出期限：令和2年11月30日（月）
 提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

お問い合わせ

愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課
 TEL：089-927-9154
 E-mail：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp



教職員能力開発拠点

（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）

本拠点の目的は、全国の大学教職員能力開発の質向上に寄与することにあります。第3期（令和2年度～6年度）は、第1期～第2期（平成22年度～令和元年度）までの取組をさらに発展させ、研修プログラムの提供による個々の教職員の能力開発支援だけでなく、教育改善に関する専門家・指導者の養成や本拠点が開発したFD/S Dモデルの提供などを通じ、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発（OD：Organizational Development）」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指します。この目的を達成するため、「①IRを含む専門家・指導者養成と支援、②FD/S Dモデルの構築と普及、③FD/S D活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働」の3つの取組を重点項目として位置づけています。

質保証を担う中核教職員能力開発拠点

（名古屋大学高等教育研究センター）

本拠点は、高等教育に関する専門的・実践的研究をもとに、教授法開発と授業支援、SDプログラム開発、初年次教育・学習や大学院教育・学生の支援等を行っており、平成29年に文部科学省から認定（平成29年度～令和3年度）されました。拠点取組の背景にある今日の質保証においては、内部質保証システムの構築がその中心的取組であり、教育プログラムの一貫性とエビデンスベースの評価やIR機能等の検証システムの構築の推進を担うなど、重要な役割を果たす教職員の育成が期待されています。大学教職員のキャリアが多様化する中、質保証の中核を担う教職員の多様な研修ニーズに応える教材と教職員同士の連携体制の構築、研修機会の提供は喫緊の課題であり、本拠点はこの課題解決に資することを目指しています。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

II. FD/SDモデルの構築と普及

a. 研修プログラムの提供

年度当初、第3期の基本方針に基づき14本を提供する予定であった研修プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、2プログラムを中止、12プログラムを対面開催から遠隔開催（一部対面含む）へ変更した。この変更により、今年度のプログラム参加者総数は昨年度から27%増の269名（3月8日現在）となった。会場へ移動する必要がなくなったことが、受講者増加に繋がったとみられる。また、事後アンケートでは、受講者の満足度が95%以上と高く、ほとんどのプログラムで遠隔開催が可能であることが立証されたといえる。

以下、2プログラムを抜粋して紹介する。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P.21～32に記載

（本拠点の研修プログラムの特徴）

1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD/SD/IRの各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

「第34回授業デザインワークショップ」は、7月4日（土）～24日（金）に同期型（Zoom）・非同期型（Moodle ※注）を組み合わせ、23名の教員が受講した。教材提示や課題提出など、研修に関することは基本的に非同期（Moodle）で行われ、質問・相談受付は同期（Zoom）を利用するなど、授業を担当する際に必要となる基礎的な知識と技術について個々のペースで理解を深めていった。受講者からは、「オンラインでありながら様々な分野の先生方と交流でき、大変有意義なプログラムだった」「自身の授業の組み立て方を客観的に見る良い機会だった」「オンラインのため、自分のペースで各教員のシラバス・講義計画の多様な形態や意見を参照し進めることができた」など、遠隔開催を支持する声も寄せられた。

また、「ティーチング・ポートフォリオ（TP）作成ワークショップ」は、7月11日（土）～12日（日）に対面と同期型（Zoom）を組み合わせ、9名の教員が受講した。対面は最初のメンタリングのみとし、その後のメンタリングを含む研修はZoomを活用しながら実際にTPを作成した。受講者からは、「自身の教育思考を振り返ることができ、漠然としていた教育の方向性や目標が明確化できた」「オンラインでもメンターの先生方や他の教員の方々と意見交換でき、教育の方法や工夫について大変参考になった」「自身の根底にある教育理念に気付くことができた」などの感想が寄せられ、TP及びメンターの必要性を実感したことが窺えた。

※注：愛媛大学のe-Learningの授業を支援する学習マネジメントシステム（Learning Management System：LMS）

教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(令和2年度)

2021年3月8日現在

日 程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
1 7月4日(土)～24日(金) 【Zoom/Moodle】	第34回授業デザインワークショップ	FD	23	100
2 7月11日(土)～12日(日) 【対面/Zoom/Moodle】	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	9	100
9月11日(金)	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	FD/SD	※感染症拡大防止のため中止	
3 9月23日(水) 【Zoom】	効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)	FD	7	100
4 9月23日(水) 【Zoom】	ジグソー学習法入門	FD	14	100
5 9月24日(木) 【Zoom】	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－	FD/SD	12	100
9月30日(水)	効果的なグループワークの進め方	FD	※感染症拡大防止のため中止	
6 10月1日(木)～31日(土) 【Moodle】	プロジェクトマネジメント	FD	35	94.3
7 10月23日(金)～24日(土) 【Zoom】	SDコーディネーター(SDC)養成講座	SD	16	100
8 12月9日(水)～1月9日(土) 【Moodle】	学習評価の基本	FD	34	100
9 12月10日(木)～1月31日(日) 【Moodle】	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	25	100
10 12月10日(木)～1月10日(日) 【Moodle】	アクティブラーニング入門セミナー	FD/SD	36	100
11 12月18日(金)～19日(土) 【Zoom】	IRer養成講座	FD/SD	33	100
12 2月5日(金)～3月12日(金) 【Moodle】	教職員のための学習支援入門セミナー	FD/SD	25	100
合計			269	99.0

第34回授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 中井俊樹, 仲道雅輝, 村田晋也, 竹中喜一
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和2年7月4日(土) ~ 24日(金)

▶場所

オンライン開催 ※一部Zoom受講
(愛媛大学Moodle3.5(学習管理システム)を用いて開催)

▶参加者

23名[学内23名]

▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し, 学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 教育評価の原理と種類を理解し, 学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。

▶内容

愛媛大学のLMSであるMoodle, 指定の書籍(受講者に事前に貸与致します), オンラインのミーティングツールを活用して実施します。受講上の連絡, 研修の教材提示, 課題の提出など, 研修に関することは基本的にMoodleを通じて行います。

1. オリエンテーション(Zoom)
 - ・受講者および講師の紹介
 - ・受講の進め方
2. 動画教材の閲覧(Moodle 上)
 - ・シリーズ・大学の授業を極める 教授法
 - ・シリーズ・大学の授業を極める アクティブラーニング
3. 書籍による学習 (受講者に該当書籍を貸与)
 - ・シリーズ大学の教授法1「授業設計」
 - ・シリーズ大学の教授法4「学習評価」
4. 2. 及び3. の内容に関する確認テスト(Moodle 上)
5. 授業シラバスと1回分の授業案の提出(Moodle上)
 - 提出した課題に対して受講者同士でコメント
6. 5. のコメントを踏まえ, シラバスと授業案をブラッシュアップしたものを提出(Moodle 上)

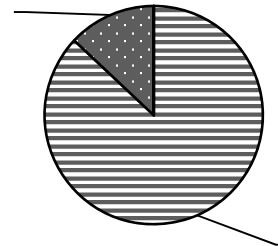
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

23名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



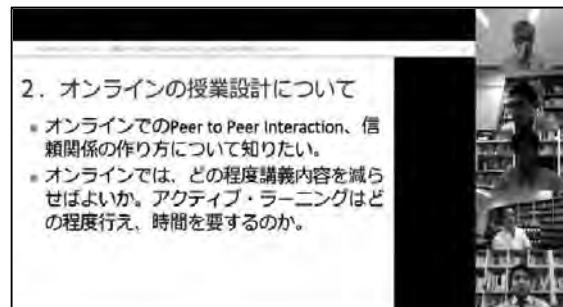
▶コメント

○オンライン上で各教員の先生方のシラバス・講義計画ともに多様な形態や意見を参照することができました。また, 受講者と教員のやりとりもMoodle上で可視化されていたため, すべてのやりとりを閲覧することができました。これらは, オンラインならではのメリットであり, とても勉強になりました。

○オンラインでいつでも意見を交換できる点は非常に良かったのですが, 書き込む時間帯によっては相手先へ迷惑等かかるのではと心配になりました。また, 文字で残ることが良い反面, 対面でないためテンポがつかみにくく感じました。

○アクティブ・ラーニングをどのように授業に組み込むかについて理解が深まりました。単に導入するだけでなく, 学生が本当の意味で主体となって活動ができるような動機づけの促しや実施のタイミングを学んだので, 今後取り入れていきたいと思います。

○対面での実施がかなわず残念でしたが, Moodleでは自分のペースで作業が進められたり, 先生のコメントに対してベストな答えをお示しするために考える時間が十分にいただけたりと, 長所もたくさんありました。動画による学習も繰り返し確認できたので, 今後もぜひ取り入れていただきたいなと思いました。



ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 村田晋也, 仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和2年7月11日(土) ~ 12日(日)

▶場所

・対面開催(オリエンテーション・メンタリング等)
・オンライン開催 ※一部Zoom受講
(愛媛大学Moodle3.5(学習管理システム)を用いて開催)

▶参加者

9名[学内9名]

▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何か説明できる。
2. TPの必要性・有効性について説明できる。
3. TP作成の要点と手順を説明できる。
4. TPを作成できる。

▶内容

〈1日目〉

オリエンテーション+全体コメント及びミニワーク
メンタリング(対面)
昼食会・意見交換
TP作成作業
メンタリング(Zoom等オンライン)

〈2日目〉

TP作成作業
メンタリング(Zoom等オンライン)
TP作成作業
昼食会・意見交換
TP作成作業
TP発表および共有(Moodleへ提出)



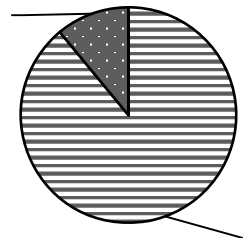
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

9名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 事前課題(スタートアップ・シート)を書くことで、ワークショップ2日間のあいだにTP原稿をある程度書き上げて形にするために、たたき台として有用でした。普段あまり意識しない、自分の目指す教育の方向性や考え方などを明らかにすることができました。
- 文字にすることで自身の教育理念や方法を整理することができたため、大変有意義でした。
- 教育が評価してもらえるということに初めて気がついた。授業を行うモチベーションが向上した。

〔この研修の改善点〕

- コロナ禍では大変ですが、対面が少しでもある方が良いと思います。ワークショップ中に他の先生方と意見交換をするミニワークがありましたが、その機会は貴重ですし、教育の方法や工夫についてお聞きでき大変参考になりました。ああいった交流の場が少しでもあると、ワークショップがより充実すると思います。
- 主要な作成作業そのものは研究室等で行いたいですが、メンタリングは対面の方が圧倒的にやりやすいので対面にしてほしいです。



効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和2年9月23日(水) 10:00 - 12:00

▶場所

オンライン開催(Zoom)

▶参加者

7名[学内4名・学外3名・徳島大学(1), 愛媛県立医療技術
大学(1), 松山東雲女子大学(1)]

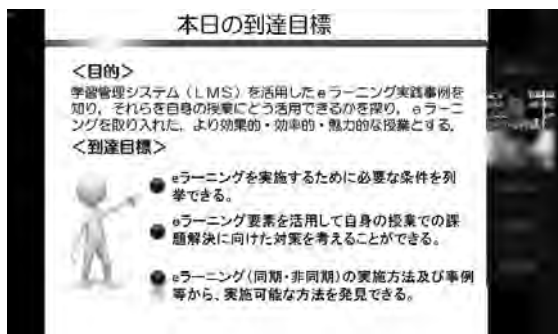
▶目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

▶内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法が知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。



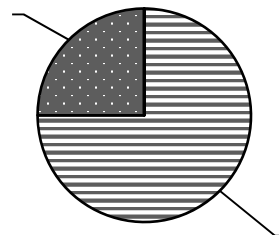
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

4名(57.1%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○Zoomの使い方等について、より知識を深めることができ、楽しく学ぶことができました。

○Zoomで授業をしたことがあったが、受講者側を経験したことがなかった。今回初めてZoomで受講して、アンケートの機能やグループワークの機能があることを知り、勉強になった。

○着任したばかりで講義を持ったことがなかったのですが、eラーニングの活用について初歩から学ぶことができました。また、先生方のオンライン講義での経験談を聞くことができて、非常に勉強になりました。

〔この研修の改善点〕

○ブレイクタイムで、先生方ともう少し意見交換ができたらよかったですと思いました。



ジグソー学習法入門

【実施概要】

▶講師

村田晋也（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和2年9月23日（水） 13:30 - 15:30

▶場所

オンライン開催（Zoom）

▶参加者

14名[学内8名・学外6名_高知大学(1), 高知県立大学(2), 松山東雲女子大学(1), 聖カタリナ大学(1), 徳島文理大学(1)]

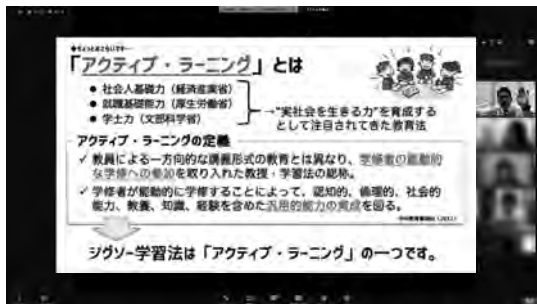
▶目標

1. ジグソー学習法の基本的な仕組みについて説明できる。
2. ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方を体験し、授業での活用を検討できる。

▶内容

社会心理学者K. レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とはいても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。

そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の1つを体験して頂ければと考えています。これは、社会心理学者E. アロンソンが1978年著書『The Jigsaw Classroom』（松山安雄訳『ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方』）の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本セミナーの主たる目的としています。



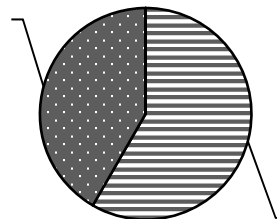
【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

12名（85.7%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

【この研修の良かった点】

- 実際にジグソー学習法の良さを実感できた点。
- ジグソー学習について全く無知の状態を受講しましたが、講義に取り入れることで、自分の中で組み立てる力や意見を聞く力が必要となるとても興味深い学習法でした。実践できてとても分かりやすかったです。
- 参加者からの質問に対して、講師の先生が的確に答えてくださった点です。不安を抱えてという理由での参加が多いので、しっかりと情報を提示して下さる先生はとても信頼でき、満足度も非常に上がりました。
- すぐに授業で取り入れることができそうな内容でした。
- 演習におけるジグソー学習法の活用について、基本的な枠組みが理解できたため、活用法を具体的にイメージすることができた。

【この研修の改善点】

- オンライン講義について、画面を見続けることができる限界があるため、節目にインターバルとなるような休憩があればよかったです。
- 日本語がネイティブでない外国人教員の参加満足度を考えたとき、グループワークの時間を長く、あるいは人数配分を少なくするなどの検討が必要ではないかと感じた。



【ブレイクアウトルーム移動前】

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 — 課題分析図の活用 —

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和2年9月24日（木） 10:00 - 12:00

▶場所

オンライン開催（Zoom）

▶参加者

12名 [学内5名・学外7名 徳島大学(1), 愛媛県立医療技術大学(1), 高知県立大学(2), 高松大学(1), 聖カタリナ大学(1), 徳島文理大学(1)]

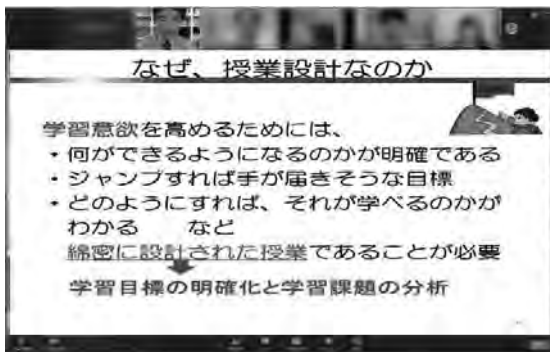
▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。

次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

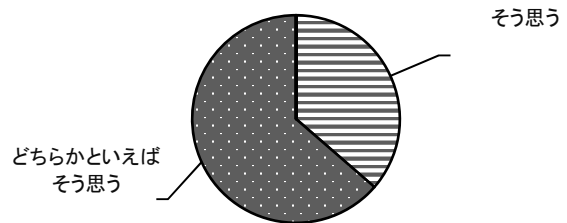


【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

11名（91.7%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○授業の効果に疑問を感じた際、学習課題の構成を一旦フラットに分解して、もう一度組み上げながら再検討していくという、具体的な授業設計の方法、改善の方法を学ぶことができた。

○課題分析図というものを初めて知りましたが、授業や実習のために、何を考えて進めなければならないか、その手順について整理することができました。

○分野の異なる先生と意見交換することができ、参考になりました。

○学習意欲を高めるにはどう授業を工夫すればよいか、目的や方法を綿密に設計する必要があることを学びました。

○ひとつの単元を分解して体系的に考えるということができました。

〔この研修の改善点〕

○課題分析に時間をかけて取り組みたかったので、グループワークを含めもう少し時間がある方がよかった。

○専門に近い先生方とのディスカッションや意見交換もできれば、自身の講義を考えていく際に参考になると思いました。



プロジェクトマネジメント

【実施概要】

▶講師

丸山智子（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和2年10月1日（木）～令和2年10月31日（土）

▶場所

オンライン開催

（愛媛大学Moodle3.5（学習管理システム）を用いて開催）

▶参加者

35名〔学内15名・学外20名_香川大学(2)、高知大学(3)、徳島大学(4)、高知工業高等専門学校(3)、新居浜工業高等専門学校(1)、愛媛県立医療技術大学(4)、高知県立大学(2)、香川短期大学(1)〕

▶目標

1. プロジェクトマネジメントとは何かを説明できる。
2. プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスを説明できる。

▶内容

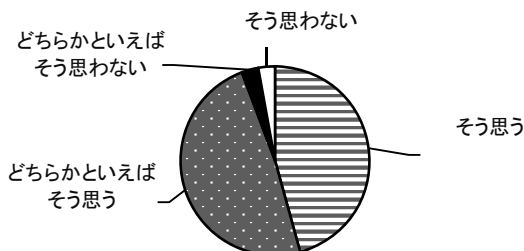
1. プロジェクトとは
2. プロジェクトマネジメントとは
3. プロジェクトのライフサイクル
4. プロジェクトの目的の共有
5. 9つの知識エリアとプロセス
 - －プロジェクト憲章
 - －Work breakdown structure(WBS)
 - －リスクマネジメント
 - －ステークホルダーマネジメント
6. チームの育成
7. プロジェクトの終結

【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

33名（94.3%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



【アンケート結果】

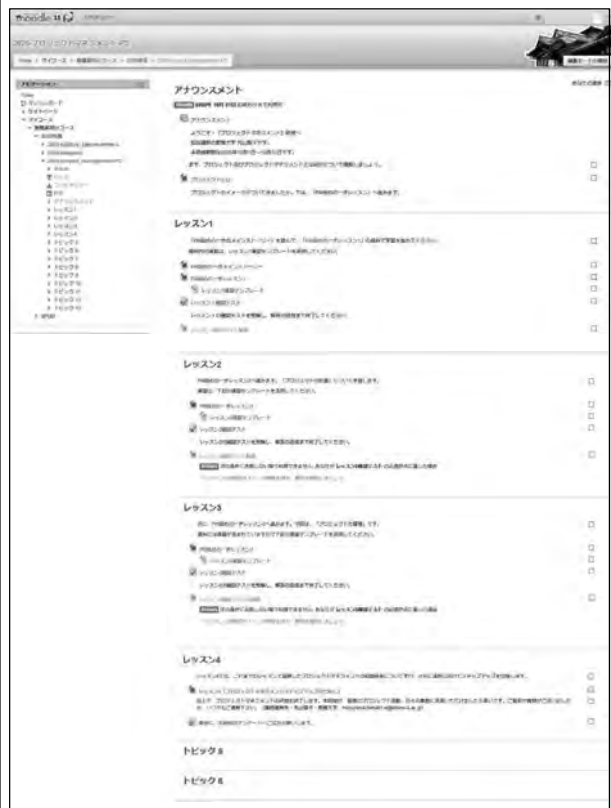
▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- プロジェクトマネジメントの基礎知識を学ぶことができた。
- プロジェクトマネージャーとしての作業計画の立て方が身に付いた点やリスクの捉え方や進捗状況の把握方法など、個人での作業においても役立つ知識を学べた点
- 城造りを例にプロジェクトの進め方を説明しており、大変分かりやすかった。
- システムティックに計画・実行・評価・報告することで、より質の高いプロジェクトを期限内に達成できることが分かりました。
- 計画的にプロジェクトを実行することの重要性を改めて認識しました。

〔この研修の改善点〕

- できれば対面で、グループワークをしながら進める方が身につくと思います。
- 説明動画があるとよいと思います。



【Moodle画面】

SDコーディネーター養成講座

【実施概要】

▶講師

横山浩一(青森中央学院大学)
小林直人, 中井俊樹, 竹中喜一, 吉田一恵, 山浦久美子,
進藤千晶(愛媛大学)
補助業務: 葛西崇文(青森中央学院大学)

▶日時

令和2年10月23日(金)
~24日(土)

▶場所

オンライン開催(Zoom)

▶参加者

16名[学外16名 北星学園大学(1), 東北学院大学(1), 東北文化学園大学(1), 東京理科大学(1), 獨協医科大学(1), 成城大学(1), 創価大学(1), 順天堂大学(2), 玉川大学(1), 文京学院大学(1), 神奈川工科大学(1), 立命館大学(1), 京都産業大学(1), 大阪市立大学(1), 徳島文理大学(1)]

▶目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる。
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる。
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる。
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる。
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる。
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

▶内容

〈1日目〉

オリエンテーション
SD, SDCについて理解する
人材育成ビジョンの必要性について理解する
組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ
SP, メンタリングの導入事例及びその有効性について
メンタリングを実践する
演習: SDの企画書の共有

〈2日目〉

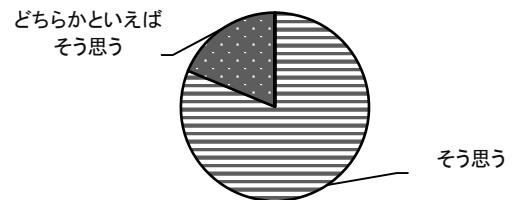
SDプログラムを企画・運営する
演習: SDの企画書の個別相談と修正
演習: SDの企画書(修正版)の共有
振り返り
クロージング



【アンケート結果】

▶回答者(回答率) 16名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

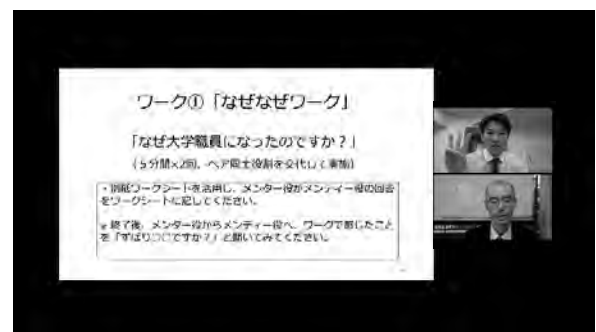
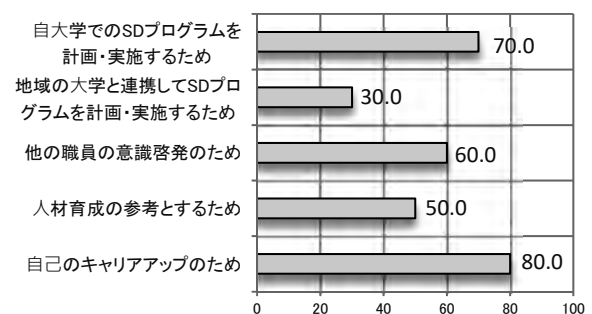
- 今まさに進めなければいけない内容について、講師の方々から具体的なコメントやアドバイスをいただいた。
- 取り組むべき課題が明確化されてよかった。
- 他大学の担当の方と考えられている企画や問題点を共有できたことがとてもよかった。
- SD企画書の共有では自分とは全く違うテーマであっても、得られるヒントが多くあったため他者の企画を聞く意義を感じる事ができた。

〔この研修の改善点〕

- 参加者同士の今後の交流のため、メールアドレスの共有ができないものかと思います。
- フリートークの時間をもっとほしかったです。

▶SDC資格取得について

◆SDCの認定を目指す理由(複数選択可)



学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和2年12月9日（水）～令和3年1月9日（土）

▶場所

オンライン開催
（愛媛大学Moodle3.5（学習管理システム）を用いて開催）

▶参加者

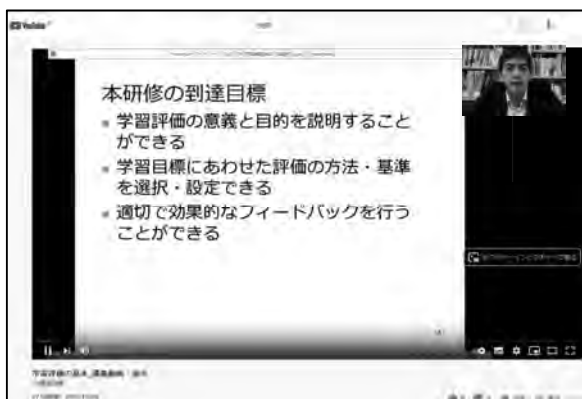
34名〔学内13名・学外21名_香川大学(4), 新居浜工業高等専門学校(1), 愛媛県立医療技術大学(2), 高知県立大学(5), 岡山理科大学(2), 高松短期大学(1), 高知リハビリテーション専門職大学(1), 松山東雲短期大学(1), 人間環境大学松山看護学部(1), 聖カタリナ大学(2), 徳島文理大学(1)]

▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 学習目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
3. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。

▶内容

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 学習評価の工夫
7. 学習を促す評価



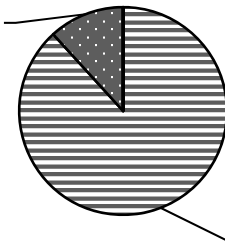
【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

34名（100%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 研修資料がとても分かりやすく、先生の説明もとても丁寧で丁度よいスピードで解説していただけたので、理解しやすかったです。
- ぶれない評価のコツを学ぶことができました。
- 評価方法のみならず、評価時期についても考えることができました。
- 動画は分かりにくかったところを繰り返し聞き、細かいところまでメモをとって視聴することができたので、理解が深まった。
- 研修の組み立て方、教材の作り方そのものも自分の授業に活かそうと、勉強になった。

〔この研修の改善点〕

- ルーブリック作成後、講師に評価していただけると自分自身の形成評価にもなって助かると思った。
- 各評価法について、実例をもっと詳しく紹介してほしい。



【Moodle画面】

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和2年12月10日(木)～令和3年1月31日(日)

▶場所

オンライン開催
(愛媛大学Moodle3.5(学習管理システム)を用いて開催)

▶参加者

25名[学外25名_愛媛県立医療技術大学(1), 岡山理科大学獣医学部(2), 香川高等専門学校(3), 香川大学(3), 高知リハビリテーション専門職大学(1), 高知県立大学(6), 松山東雲短期大学(2), 新居浜工業高等専門学校(1), 人間環境大学松山看護学部(1), 聖カタリナ大学(2), 徳島大学(1), 徳島文理大学(2)]

▶目標

1. シラバスの役割を説明できる。
2. 授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
3. 適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

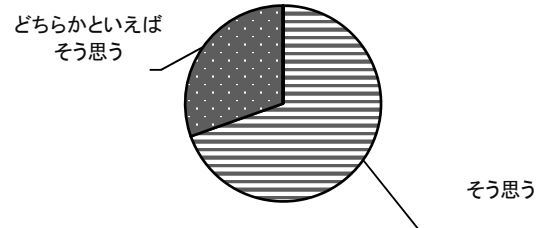
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か?
 - ・定義
3. 授業題目
 - ・キーワードの書き方
 - ・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
 - ・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
 - ・到達目標の書き方
6. 授業内容
 - ・スケジュールの書き方
 - ・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
 - ・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組ませるコツ
 - ・eラーニングを活用した学習課題に取り組ませるコツ
8. 受講条件の書き方
 - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
9. 受講ルールの書き方
 - ・受講のマナー
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

23名(92.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- オンデマンドによる受講は学習機会を得やすく、適切な確認テストの挿入は学習意欲につながった。
- シラバス作成にあたり、基本から完成度の高いシラバス作成についての解説的な説明はよく分かり、大変参考になりました。
- これまで実際に取り組んできた工夫などに対して、一定の根拠をもって改めて取り組むことができるようになった。

【この研修の改善点】

- 何度も復習したいため、できれば研修期間外でも研修資料の視聴ができると非常に助かります。



【Moodle画面】

アクティブラーニング入門セミナー

【実施概要】

▶講師

竹中喜一, 上月翔太 (愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和2年12月10日(木)～令和3年1月10日(日)

▶場所

オンライン開催
(愛媛大学Moodle3.5(学習管理システム)を用いて開催)

▶参加者

36名[学内9名・学外27名・香川大学(5), 高知工業高等専門学校(1), 愛媛県立医療技術大学(1), 高知県立大学(3), 岡山理科大学(5), 高松短期大学(1), 高知リハビリテーション専門職大学(1), 四国大学(1), 松山東雲女子大学(1), 松山東雲短期大学(2), 人間環境大学松山看護学部(2), 聖カタリナ大学(2), 徳島文理大学(2)]

▶目標

1. アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
2. アクティブラーニングの技法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
3. 自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの技法を列挙することができる。
4. アクティブラーニングの技法を効果的に実践することができる。

▶内容

1. アクティブラーニングを理解する
2. 学習課題を組み立てる
3. 発問で思考を刺激する
4. 経験を学習に変える
5. 学生を相互に学ばせる



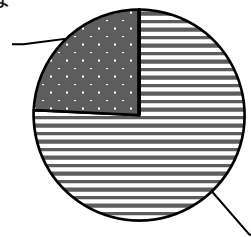
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

34名(94.4%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

[この研修の良かった点]

- アクティブラーニングの手法や考え方について改めて学習できたのはもちろん、オンデマンド配信でアクティブラーニングを行う一手法を体感できたことが良かった。
- 教育学理論に裏付けされた教育方法を解説して頂けたので、今後自信を持って自分の講義演習に応用できる。
- これまで行っていた演習の意味付けと体系化ができた。
- 研究活動においても活用できそうな指導方法を学ぶことができた。
- 講義と併用してよいことやALの手法・留意点など適する場面を教えていただき、自身の弱点に気付くことができました。これらをもとに授業を向上させようと思います。

[この研修の改善点]

- 事例なども提示いただき、イメージを膨らませられる内容があれば更に良かった。
- 研修期間後も視聴できると大変有難いです。



【Moodle画面】

IRer養成講座

【実施概要】

▶講師

鳥田敏行(茨城大学), 中島英博, 丸山和昭(名古屋大学)
小林直人, 中井俊樹, 竹中喜一(愛媛大学)

▶日時

令和2年12月18日(金)
~19日(土)

▶場所

オンライン開催(Zoom)



▶参加者

33名[学内1名・学外32名_山梨学院大学(1), 松本大学(1), 沖縄国際大学(1), 天理大学(1), 武庫川女子大学(1), 四日市看護医療大学(1), 愛知医療学院短期大学(1), 新潟工業短期大学(1), 京都文教大学(1), 筑波技術大学(1), 筑紫女学園大学(1), 大阪体育大学(1), 東邦大学(1), 立教大学(1), 札幌大学(1), 筑波大学(1), 杏林大学(1), 東北福祉大学(1), 佐賀大学(1), 浜松医科大学(1), 日本赤十字秋田看護大学(1), 東北工業大学(1), 奈良学園大学(1), 久留米大学(1), 佛教大学(1), 川崎医療短期大学(1), ノートルダム清心女子大学(1), 大阪学院大学(1), 同志社大学(1), 東北大学(1), 大阪産業大学(1), 鹿児島女子短期大学(1)]

▶目標

1. IRの意義と方法について説明できる。
2. 学習成果を評価するための方針について説明できる。
3. 学生にかかわるデータを分析し報告するための方法を説明できる。
4. 所属大学におけるIRの改善提案ができる。
5. 多様な考えや経験を尊重し, 共に学び合う雰囲気をつくることができる。

▶内容

〈1日目〉

アイスブレイク・オリエンテーション [全講師]
IRの意義と方法を理解する [中井俊樹]
アセスメントプランを作成・運用する [竹中喜一]
調査の企画とデータ収集を行う [丸山和昭]
実務担当者の分析事例 [鳥田敏行]
管理者の求める報告のポイントとは [小林直人]
IRに関する質疑応答 [全講師]

〈2日目〉

量的データを分析する [丸山和昭]
質的データを分析する [中島英博]
IRの課題解決を検討する [全講師]

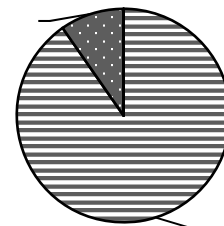
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

31名(94.0%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 当面の課題解決への糸口だけでなく, IR担当組織の在り方についても学ぶことができました。
- グループワークが多く, 考える時間やディスカッションの時間も確保されていた点。
- 教職員の垣根を越えて他大学のIR担当者と交流ができ, 様々な声に触れることができました。
- 質問のフィードバックを含め, 講師の方々から直接的に懇切丁寧なアドバイスをいただけたこと。
- 講師から様々な資料の提供があり, 今後の業務において振り返りができるため心強い。
- 基礎だけでなく, 総論からIRの活用が期待される場面, 具体的な集計・分析方法のTipsまで, 事細かに教示いただいた点。

〔この研修の改善点〕

- Zoomミーティングを立ち上げながら, ブラウザで多数のPDFを眺めながらPowerPointでスライドを作成するのは厳しいと感じました。
- 非常に濃密で実践的な研修のため, 2日間ではなく3日間にしてほしかった。



教職員のための学習支援入門セミナー

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和3年2月5日（水）～令和3年3月12日（金）

▶場所

オンライン開催
（愛媛大学Moodle3.5（学習管理システム）を用いて開催）

▶参加者

25名[学内5名・学外20名_香川高等専門学校(1), 香川大学(2), 高知工業高等専門学校(3), 鳴門教育大学(1), 愛媛県立医療技術大学(3), 高知県立大学(1), 岡山理科大学(2), 高知リハビリテーション専門職大学(1), 松山東雲女子大学(1), 人間環境大学松山看護学部(2), 聖カタリナ大学(1), 徳島文理大学(2)]

▶目標

1. 学生の自律的な学習の促進・阻害要因を説明できる
2. 学生の学習意欲を高める指導を実践できる
3. 学生の学習に対する思考を刺激する問いかけを行うことができる

▶内容

1. 学生の学習に対するつまづきを理解する
2. 学生の学習意欲を高める指導を行う
3. 学生の選択肢を広げる問いかけを行う
4. 学生の選択を促す問いかけを行う
5. 自律的な学習者を育てる

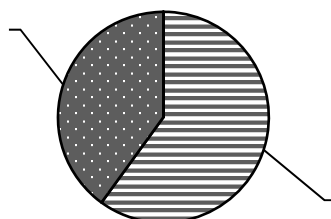
【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

20名（80%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった

どちらかといえば
そう思う



そう思う

▶コメント

【この研修の良かった点】

- 学生の学習意欲を高めるための発問の仕方や指導の工夫について、具体例とともに学ぶことができた。
- 質問に答えるだけの支援でなく、学生の自助努力による成長を促すための支援の意義や方法を学ぶことができました。
- 学生個々の学習スタイルについて、どう対応すればよいのか迷っていたので、参考になりました。
- 職員に対する能力開発において活用できる理論が、学習支援においても多く活用できることが分かった。
- 録画動画の配信は、こちら側でスピード調整や繰り返し再生などが可能なので、非常に助かります。

【この研修の改善点】

- 対面で受講するより長く感じるため、もう少し時間を短くしてもよいかと思いました。
- 言葉だけの説明でよく理解できないまま進んでいく内容が多かったように思います。スライドの説明を理解して消化して次に進むようにするために、適宜一時停止して自分のペースで学んでいきたいと思いました。



【Moodle画面】



【動画視聴画面】

b. 研修講師派遣

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、令和3年2月末までに30機関に対し、40件の講師派遣を行った。研修講師や研修内製化のためのアドバイスを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している（講師派遣先から提出された報告書の一部をP.35～40に掲載）。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの研修を遠隔で実施した。

<令和2年度講師派遣件数>

令和3年2月末現在

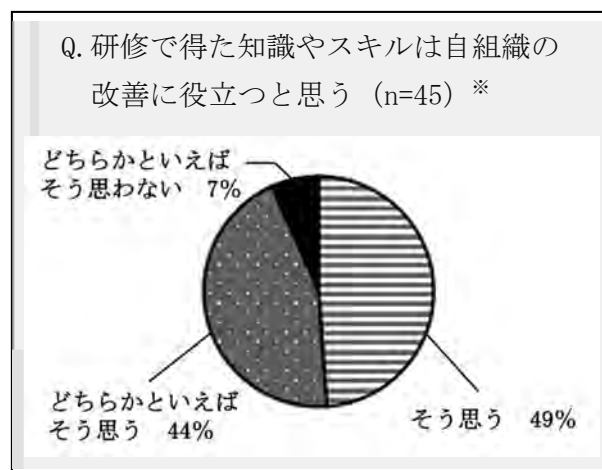
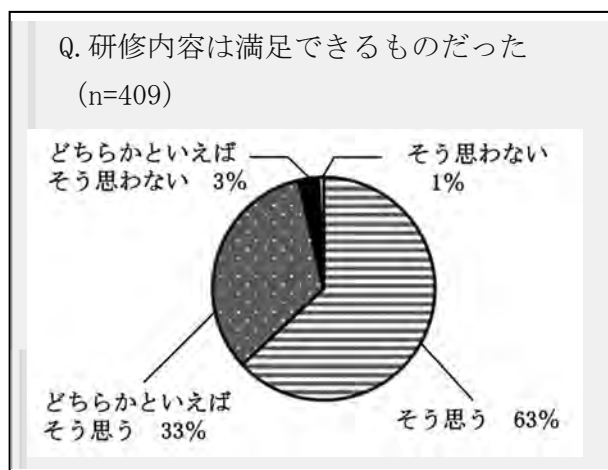
地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣数	0	1	5	7	10	7	10	0	40

<講師派遣先での研修プログラム例>

- ◆カリキュラムコーディネーター養成研修会
 - ◆遠隔授業におけるアクティブ・ラーニング
 - ◆教育効果・学習成果の評価方法とその実践
 - ◆現場における教育能力の向上
 - ◆高等教育におけるIR
 - ◆大学の変革を担える職員になるために
 - ◆大学職員に必要な能力と専門性
- 等

<事後アンケート結果>

研修受講者対象の事後アンケートの結果、「研修に関する満足度」及び「自組織の改善への効果」に関する設問に対し、90%以上が肯定的な回答を示した。



※年度途中より設問に追加

<研修講師派遣先からの声（事後アンケート自由記述より一部抜粋）>

- ・学習成果の可視化という難しいテーマを初心者にも理解しやすいように工夫して講演頂けたと思います。多くの教職員が参加し本学独自の可視化への取り組みの第一歩となれば、研修の意義があったと言えます。

- ・私は、これまで教員として、行政職として何度も研修を受けてきましたし、現場では管理職としてクレーム対応してまいりましたが、今回の研修は、一般論としてよく整理された内容で、大変分かりやすかったと思います。内容的に、初めて知ったことや、改めて認識したことなどたくさんあり、「なるほど」と何度もうなずいた納得の研修内容でした。
- ・具体的な方法や工夫の仕方について学ぶことができた。さっそく教材やレポート課題の改善に役立てることができそうだ。

<組織開発支援を目的とした講師派遣>

「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」に基づき、組織開発支援を目的とした講師派遣を行っている。この取組では、カリキュラム改善や研修体系の構築といった特定の課題の解決に向けたコンサルティングや、段階別・階層別研修の継続的な実施等、依頼元の高等教育機関が持つ個別のニーズに沿った支援を提供している。以下に令和2年度の取組の例を示す。

◆カリキュラム改善に関する支援

依頼元機関の教職員を対象としたカリキュラム構築・評価に関する研修を複数回実施した。また、新カリキュラムの検討を担当する部局の会議等に定期的に講師を派遣し、当該機関の新カリキュラム構築に関する継続的な支援を行った。

◆カリキュラムコーディネーター養成研修会への講師派遣

日本高等教育開発協会(JAED)が主催する「カリキュラムコーディネーター養成研修会」の企画者および講師として、本拠点教員2名を派遣した。本研修では、事前学習および2日間の学習を通して個々の大学のカリキュラムの課題解決を支援した。

◆教学マネジメントに関する支援

所属機関の実情にあった組織・体制の考案や、教学マネジメントに関する自大学の強み・改善点の検討などを目的とした教学マネジメント研修を実施した。本研修には、依頼元機関の学長、副学長、各学部・学科・研究科長、事務局・部長、各種委員会委員長といった執行部から多くの者が参加した。

◆大学事務組織の人事施策等の検討に関する支援

依頼元機関に対し、管理職のマネジメントや事務職員のキャリア形成等、大学事務組織の人事施策に関するモデルを提供した。また、スタッフ・ポートフォリオやメンタリングの導入に関する継続的な個別支援を行った。

◆オンライン授業に関する支援

コロナ禍におけるオンライン授業の設計、成績評価、アクティブ・ラーニング推進等に関する段階別研修を複数回実施し、個別フォローアップ対応を行った。

大阪国際大学からの報告

研修名：学修成果の可視化に向けた計画と実践の方法

日 時：令和2年9月3日（木）15時～16時30分

会 場：大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部（Google Meet で開催）

講 師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）

参加者：120名（教員88名，職員32名）

<概要等>

愛媛大学の竹中喜一先生を講師にお迎えし、「学修成果の可視化に向けた計画と実践の方法」をテーマに Google Meet でのオンラインによる研修が行われました。内容はレジュメに基づき、「学修成果の可視化」の意義と必要性、「学修成果の可視化」に向けた計画、「学修成果の可視化」の方法、「学修成果の可視化」を機能させる工夫の順にわかりやすく説明されました。研修の中で、参加者に課題を与えて考える時間もあり、適宜参加者への問いかけも交えて行われました。一連の説明のあと、参加した教職員の方からチャット機能を用いた質疑応答が行われ、竹中先生からご回答をいただきました。

本日の研修会の内容を踏まえ、学修成果の可視化の実践手法を有効に活用していければと感じました。



北里大学からの報告

研修名：医療系学部における学生の成績評価

日 時：令和2年10月24日（土）10時～12時

会 場：（本部）北里大学相模原キャンパス新A号館（医療衛生学部棟）3階 HYGEE ROOM

Web 会議（Zoom 使用）

講 師：小林 直人（愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，教授）

参加者：110名（教員：104名，職員：6名）

<概要>

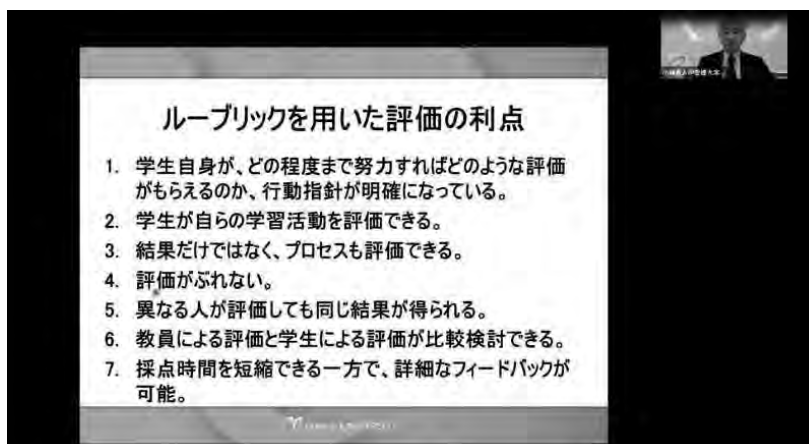
愛媛大学の小林直人氏に、『医療系学部における学生の成績評価』のテーマでご講演いただいた。今回の研修会は、新型コロナウイルスの影響によりZoomによるオンラインでの開催とし、教員がそれぞれの場所で研修に参加した。

まず、「コロナ禍」での遠隔授業に関するワークを行った。前期の講義における経験を振り返りながらワークを行うことができた。

その後、評価方法の効果的な使い方について、大学における具体例とともにご解説いただいた。評価の原則といった核となる部分や、学修成果可視化のための具体的な方法について、様々な角度からとらえることができた。

Zoomのチャットにて教員から寄せられた質問についても、1つ1つ丁寧に解説していただき、理解を深めることができた。

研修会終了後のアンケートでは、各講義における学修目標を意識した上でより効果的な評価方法を再考したい、との意見が多く見られた。遠隔授業について、学生が実際にどう感じていたのかを体感しながら、効果的な評価方法について考えることができる、貴重な経験となった。



ルーブリックを用いた評価の利点

1. 学生自身が、どの程度まで努力すればどのような評価がもらえるのか、行動指針が明確になっている。
2. 学生が自らの学習活動を評価できる。
3. 結果だけでなく、プロセスも評価できる。
4. 評価がふれない。
5. 異なる人が評価しても同じ結果が得られる。
6. 教員による評価と学生による評価が比較検討できる。
7. 採点時間を短縮できる一方で、詳細なフィードバックが可能。

広島市立大学からの報告書

研修名：ルーブリック評価セミナー

日 時：令和2年10月30日（金）13時～16時

会 場：Zoomによるオンラインで開催

講 師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）

参加者：32名（教員31名，職員1名）

<概要>

愛媛大学の竹中喜一氏を講師に「ルーブリック評価セミナー」をテーマに研修を行った。

評価するルーツの1つであるルーブリックがどのようなツールで，教育・学習にどのようなメリットをもたらすかについて理解した。

その後，受講者はランダムに振り分けられたグループごとにセッションを行い，小グループ・ペア学習を行う上で，グループ分けをランダムに行うことの意味や重要性について自ら体験した。

また，ルーブリックワークシートを用いて小グループ学習・ペア学習を授業に取り入れる上でのポイントや注意事項について学んだ。

<受講者からのコメント（一部抜粋）>

- ・短時間ではあったがルーブリックの作成課題を経験できたこと。ブレイクアウトルームで講師から直接コメント頂き，質問できたのは大変有用であった。
- ・オンライン授業を受ける立場の気持ちを理解することができた。
- ・ルーブリックについて知ることができた。
- ・ルーブリック作成演習を通じて，レポートの採点基準が先生によって異なり，他の先生達の考えを知ることができたのは参考になった。
- ・ご講演がとても楽しくわかりやすかったので，ルーブリックのことがとても良く分かりました。

神戸学院大学からの報告書

研修名：カリキュラムの編成・評価の原理と実践

日 時：令和2年11月2日（月）9時～15時

会 場：Zoom を用いての参加

講 師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）

参加者：神戸学院大学専任教職員51名（教員21名，職員30名）

<概要>

タイムテーブル

- 9：30 開 会
- 9：35 講演【大学におけるカリキュラムの特徴/カリキュラムの編成（前編）】
- 12：00 昼休憩
- 13：30 講演【カリキュラムの編成（後編）/カリキュラムの改善に向けて／まとめ】
- 14：40 質疑応答
- 14：55 閉会の言葉

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 竹中 喜一氏を講師としてお招きし、『カリキュラムの編成・評価の原理と実践』をテーマに SD ワークショップを実施した。

今回のワークショップではカリキュラムの特徴からカリキュラムの改善に至るまで、事例をまじえてご講演いただいた。Google フォームを用いてのワークや質問受付を随時取り入れられ、共有していただいたことで、リアルタイムで活発な意見交換がなされた。

ワークショップ終了後には教職員から『スコープとシーケンスの設定が重要であることを確認できて良かった』『教職員問わず広い視野と知識を持って取り組まねばならないと感じた』等多くの声があった。



大阪府立大学からの報告書

研修名：業務における後輩指導

日 時：令和2年11月18日（水）15時～16時30分

会 場：Zoomミーティング

講 師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）

参加者：職員20名

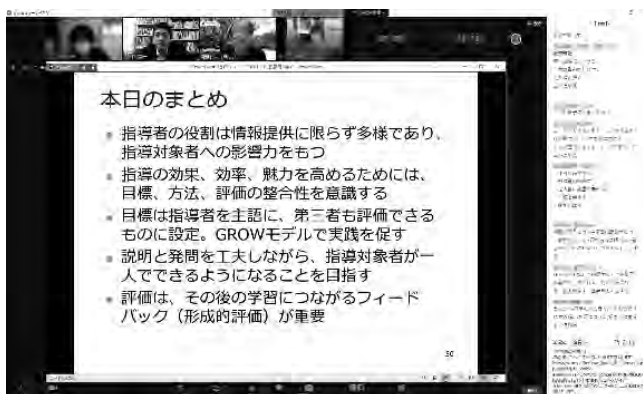
<概要>

愛媛大学の竹中喜一氏を講師に迎えて「業務における後輩指導」をテーマに研修を行いました。業務における技能や態度面の指導など、指導者としての目線で適切な指導を行うためには何をしていくべきか、ワークショップを通じ考える機会としました。

受講者には事前課題が課され、「後輩指導で自身が工夫しているコツ」について回答しました。研修当日、竹中氏が事前課題の一部の内容について紹介、解説されました。本研修は①指導の指針、②学習目標の設定、③指導方法の工夫、④学習の評価とフィードバックの4つの内容で構成されました。

課題1「指導対象者の目標設定」について、認知的領域、精神運動的領域、情意的領域の3領域を意識しながら個人で目標を設定しました。受講者は、事前に振り分けられた4名～5名のグループごとに、個人で回答した内容をグループで共有しました。課題2では、「椅子から立ち上がる手順」について作業を細かく手順にわけることにより、課題分析におけるスモールステップの原理とつくり方を体験しました。

研修終了後のアンケートでは、「研修内容は満足できるものだった」の質問に対して、回答者の9割が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答しました。



関西大学からの報告書

研修名：2020年度第1回FD講演会 学生の思考を刺激する発問

日時：令和3年1月13日（水）13時～14時30分

会場：Zoomによるオンライン開催

講師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

参加者：教員8名

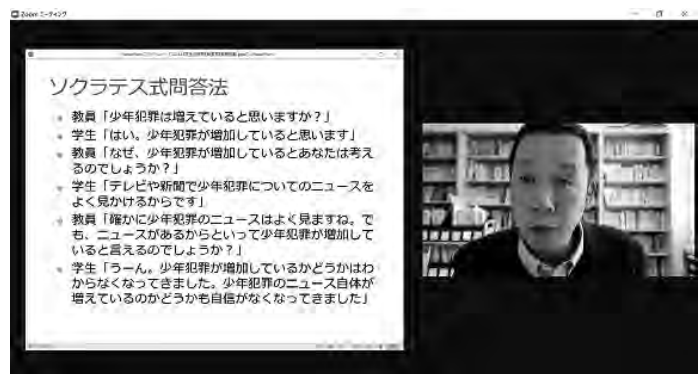
<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の中井俊樹教授を講師として「学生の思考を刺激する発問」をテーマにFD講習会を行った。

まず、問うことの重要性を簡単なクイズとZoomのチャット機能を利用した講師と参加者の双方向的なやり取りによって体験し実感した。また参加者は、講師から授業における発問の回数やその種類などについて問われ、なかなか自分の授業ではうまく発問ができていないことを理解した。講師から発問の種類や工夫などについて説明があり、授業中で効果的に発問し、学生に考えさせるにはどうすればよいかについて、具体例や実践例を交えて解説があった。新型コロナウイルスの影響で急速に広まった遠隔授業での実践例は特に参考になった。

また、社会安全学部という学際的な学部教育において、本質的な問いとは何かについて参加者がそれぞれ考え、それを全員で共有した。学部カリキュラムにおいては、個別の授業だけではなく、全体としての学習シーケンスが重要であることが強調された。

質疑応答では、発問した時に待つことの重要性や、非常に簡単だと思われるような問いからはじめることの重要性などについて活発な意見交換がなされた。



c. 情報発信

教育改革や改善を進めるためには、現状を把握し分析することが第一歩となる。本拠点では、学生の学びと成長に関わる各種データの収集・分析を行い、情報を公開している。

その成果のひとつであるポスター「データから考える愛大授業改善」は、平成27年度から発行しており、現在はV o 1.6を作成中である。今後も、教育・学習支援の充実に活用していただけるよう、学内外の教職員に広く配付するとともに、各種研修等の場でも情報提供を行う。

また、教学IR担当者への支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組報告を掲載した、教育企画室ニュースレター「IR News 第8号」を発行し、全国の高等教育機関に配付している。

これらの刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報については、教育企画室のホームページでも随時発信している。

なお、教材の提供に関しては、教育企画室が開発したオリジナル教材等を教育企画室のホームページに掲載し、非営利目的で活用いただけるよう公開している。今年度は約7,500件のアクセスがあった（令和3年2月末現在）。



IR News 第8号

d. 論文・記事の掲載等について

教育企画室のスタッフは、専門分野から大学全体の取組まで、愛媛大学での事例や研究成果を論文や記事にまとめている。今年度は、以下の各種教育誌や新聞等に24本掲載され、著書に関しても、共著を含む3冊が新たに出版された。さらに、コロナ禍における愛媛大学の様々な取組に関する報告を特集した「大学教育実践ジャーナル第20号」を臨時増刊すべく、準備を進めている。

表題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著者
Design and Implementation of an Online Leadership Education	Proceedings of International Conference on Engineering, Technology and Education	IEEE TALE 2020	pp. 239-242, December 2020.	Tomoko, Maruyama, et al.
Continuous Reflection using an E-portfolio Improves Students' Leadership Behaviour	Proceedings of SEFI 48th Annual Conference	SEFI 2020	pp. 1000-1009, September 2020.	Tomoko, Maruyama, et al.
愛媛大学における新任教員の研修制度	I D E 現代の高等教育	I D E 大学協会	2020年4月 619巻 pp.40-44	(共著) 仲道雅輝、 小林直人
アクティブ・ラーニングとは何か(書評)	I D E 現代の高等教育	I D E 大学協会	2021年1月 627巻 pp.70-71	中井俊樹
「医学教育分野別評価」受審後の着眼点～受審を受けた20大学の比較～	愛媛医学	愛媛医学会	2020年9月 39巻3号 pp.118-122	(共著) 小林直人ら
オンラインでのバーチャルチーム形成とリーダーシップ行動の変化～eポートフォリオを活用したリフレクションを通して～	日本リーダーシップ学会論文集	日本リーダーシップ学会	2021年2月 第4号, pp.9-15	(共著) 丸山智子ら
行動変容や業績向上を促すSD (Staff Development) 設計の方法論—仮説モデルの提案—	大学事務組織研究	大学行政管理学会 大学事務組織研究会	2021年3月 第7号	竹中喜一
教育者が考えるべき新しい様式の授業や研修	看護人材育成	日総研出版	2020年8月31日 Vol.17、 No.3	(共著) 中井俊樹、 上月翔太
業務を通じた指導の質を高める	臨床老年看護	日総研出版	2020年11月30日 第27巻第6号	中井俊樹
大学間連携によるミドルマネジメントを担う職員の研修	カレッジマネジメント	リクルート	2021年1月1日 226号	中井俊樹
教育の方法に唯一の正解なし 実務家教員が磨くべき教育能力とは	月刊先端教育	先端教育機構	2021年3月1日 4月号 pp.70-71	中井俊樹

表 題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著 者
PBL型授業におけるチームティーチング —四国大学看護学部「課題探求ゼミナール」における実践を通じて—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.35-40	(共著) 上月翔太ら
次世代リーダー養成ゼミナール修了者の 行動変容に関する考察—修了者へのイン タビュー調査結果をもとに—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.87-95	(共著) 吉田一恵、 吉松明子、 竹中喜一、 仲道雅輝
初年次教育科目における遠隔授業実施 支援の取り組み —「新入生セミナーA」 オンラインコンテンツの提供—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.141-146	(共著) 村田晋也、 仲道雅輝、 竹中喜一、 中井俊樹、 小林直人
コロナ禍における初年次教育科目のオン ライン授業の設計と実践—新入生セミ ナーA（教育学部）での取り組み—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.147-155	(共著) 仲道雅輝、 村田晋也ら
教育実践報告：準正課教育プログラムに おける遠隔授業実践の試み	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.157-164	(共著) 村田晋也、 仲道雅輝、 浅田隼平
遠隔実施による新任教員研修の成果と課 題—愛媛大学授業デザインワークショップ における実践をもとに—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.165-172	(共著) 竹中喜一、 仲道雅輝、 村田晋也、 中井俊樹、 小林直人
愛媛大学におけるティーチング・ポート フォリオ作成ワークショップのブレン ディッド開催の実践—対面とオンライン でのメンタリング設計の取り組み—	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学 生支援機構	2021年3月 第19号 pp.173-180	(共著) 仲道雅輝、 村田晋也、 小林直人
カリキュラムの構成要素を理解する 上	教育学術新聞	日本私立大学協会	2020年5月27日 第2806号	中井俊樹
カリキュラムの構成要素を理解する 下	教育学術新聞	日本私立大学協会	2020年6月10日 第2807号	中井俊樹
大学教育の更なる活性化を目指して—オ ンライン授業設計の要点と今後の課題	教育学術新聞	日本私立大学協会	2020年9月2日 第2814号	仲道雅輝
アセスメントプランを実質的に機能させ るための視点 上	教育学術新聞	日本私立大学協会	2020年10月21日 第2819号	竹中喜一
アセスメントプランを実質的に機能させ るための視点 下	教育学術新聞	日本私立大学協会	2020年10月28日 第2820号	竹中喜一
面談を通じた学習支援 標準的な5段階 の方法とは	教育学術新聞	日本私立大学協会	2021年2月24日 第2832号	中井俊樹

Ⅲ. FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

a. 他拠点等との協働による研修会の実施

日本高等教育開発協会（JAED）主催のファカルティ・ディベロッパー養成講座特別セミナー「2020年のFD～大学教員の学びを止めるな～」を、本拠点や他拠点も共催して、6月27日にオンラインで開催した。コロナ禍におけるFDの取組について、各大学の事例を踏まえて検討し、受講者と共に考える、時宜に即したセミナーとなった。

さらに12月に本拠点が開催したIRer養成講座は、名古屋大学高等教育研究センター（質保証を担う中核教職員能力開発拠点）との共催で実施するなど、他拠点との連携を深めている。

b. 他ネットワーク等への講師派遣・運営支援

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜主催「高等教育機関教職員のための人材育成プログラム」（7月10日、10月9日）、大学コンソーシアム石川主催FD・SD研修「授業の基本－学生の理解度を高め、魅力ある授業を演出する」（9月24日）、大学教育イノベーション日本（HEIJ）主催「第5回大学教育イノベーションフォーラム」（10月29日）、日本高等教育開発協会（JAED）主催「第2回カリキュラムコーディネーター養成研修会－中級編」（11月14日）、「第4回カリキュラムコーディネーター養成研修会－初級編」（11月21日・22日）、大学教務実践研究会・名古屋大学高等教育研究センター（質保証を担う中核教職員能力開発拠点）主催「第8回大会」（12月19日）、大学行政管理学会中国・四国地区研究会「大学の改革を担える職員になるために」（1月11日）など、他ネットワーク等へ本拠点から講師の派遣を行った。

本拠点の中井は、現在、大学教育イノベーション日本（HEIJ）の代表や、日本高等教育開発協会（JAED）の副会長を務めている。また四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）については、FD・SDともに、本拠点から多数の講師派遣を行うだけでなく、本拠点の代表である小林が企画・実施統括者を、中井がSD専門部会長を務めるなど、運営支援にも深く携わっている。

これらのネットワーク等との連携も活かし、大学教育の開発に積極的に取り組み、支援の対象を全国の高等教育機関へと広げている。

第5回 大学教育イノベーションフォーラム

2020年10月29日(木) 13:00~15:30

オンライン(Zoomウェビナー)

主催：大学教育イノベーション日本
Higher Education Innovation in Japan (HEIJ)

加盟組織：北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター、東北大学高度教養教育・学生支援機構、筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、筑波技術大学研究者高等教育研究支援センター、千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター、千葉大学アカデミック・リンク・センター、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター、帝京大学高等教育開発センター、岐阜大学医学教育開発研究センター、名古屋大学高等教育研究センター、公益財団法人 大学コンソーシアム京都、山口大学知的財産センター、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室、九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センター、熊本大学教授システム学研究センター

2020年は新型コロナウイルス感染症という脅威によって、世界中が一斉に大規模な社会実験に取り組みざるを得ない状況になりました。日本も例外ではありません。とりわけ4月7日に緊急事態宣言が発出されたことを機に、多くの組織ではリモートワークが推奨され、街の景色から人の姿が消え、私たちの生活様式は劇変しました。大学教育においては、授業のオンライン化が急速に進みました。それは、教員にとって授業設計を見直す機会になるとともに、学生の授業外学修時間が増える傾向も見られます。また、学生と教員の双方から、コロナ禍収束後の対面授業とオンライン授業の併用を希望する声も挙がっています。

FDとSDといった人材育成の現場においても、これまでとは異なる研修のあり方がこの半年間模索されてきました。オンラインで実施する研修、公開されている教材を活用する研修、オンラインで授業を担当する教員のための研修など新たな試みが行われてきました。一方、オンラインの実施での参加者のネットワークづくりなどの課題も明らかにされてきました。

本フォーラムでは、大学教育イノベーション日本加盟組織のFDとSDの取り組みの事例を踏まえて、今後各大学でFDとSDをどのように進めたらよいかの論点と課題を共有します。

- | | | |
|---------------|----------|---|
| 13:00 | 開会 | |
| 13:00 ~ 13:10 | 趣旨説明 | 中井 俊樹 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 教授) |
| 13:10 ~ 13:25 | 事例 1 | 東北大学のFD・SDの取り組みと展望
大森 不二雄 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授) |
| 13:25 ~ 13:40 | 事例 2 | 千葉大学のFD・SDの取り組みと展望
我妻 鉄也 (千葉大学 アカデミック・リンク・センター 特任助教) |
| 13:40 ~ 13:55 | 事例 3 | 芝浦工業大学のFD・SDの取り組みと展望
榊原 暢久 (芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター 教授) |
| 13:55 ~ 14:10 | 事例 4 | 帝京大学のFDの取り組みと展望
井上 史子 (帝京大学 高等教育開発センター 教授) |
| 14:10 ~ 14:20 | 休憩 | |
| 14:20 ~ 14:35 | 事例 5 | 愛媛大学のFD・SDの取り組みと展望
竹中 喜一 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師) |
| 14:35 ~ 14:50 | 事例 6 | 熊本大学のFD・SDの取り組みと展望
鈴木 克明 (熊本大学 教授システム学研究センター 教授) |
| 14:50 ~ 15:30 | 総合討論・まとめ | |
| 15:30 | 閉会 | |

HEIJ
FD・SDのイノベーション
コロナ禍における取組と今後の展望

参加申込み方法 大学教育イノベーション日本 HP「News & Event」よりお申込みください。

URL: <https://www.heij.jp/> 大学教育イノベーション日本 HEIJ

※Web 申込み不可の場合は、氏名・所属・連絡先 (e-mail) を明記の上、iehe-seminar@ihe.tohoku.ac.jp までお申込みください。

問い合わせ

大学教育イノベーション日本 (事務局)
東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター
TEL 022-795-4471 Fax 022-795-4749
E-mail: iehe-seminar@ihe.tohoku.ac.jp

ファカルティ・ディベロッパー養成講座特別セミナー

2020年のFD

～ 大学教員の学びを止めるな ～

- 日 時 6月27日(土) 13:00～16:00
- 場 所 オンライン開催 (ZOOM)
- 対 象 FDを担当している教職員

参加費無料

定員 80名



KEEP GOING

今年は当初予定したFDを中止にしようと考えているFD担当者は多いのではないのでしょうか。対面での教育が難しい現在、教員の学習よりも学生の学習を第一に考えるのは当然のことでしょう。しかし、新規に採用された教員や授業のオンライン化の支援を望む多数の教員がいる中で、すべてのFDを断念して大学教員の学びを止めてしまってもよいのでしょうか。

本セミナーでは、今年のFDをどのように進めたらよいのかを各大学の事例を踏まえて検討します。具体的には、断念せざるをえないのはどのような活動か、継続すべきものはどのような活動か、新たに開始すべきものはどのような活動か、FDを実施するにはどのような工夫が必要か、大学間で活用できる教材にはどのようなものがあるのかなどを共有します。それらをもとに各大学におけるFDをいかに構築することができるのかを考える機会にします。

主催 日本高等教育開発協会

共催 愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)
 大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部
 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター (理工学教育共同利用拠点)
 学びと成長しくみデザイン研究所

プログラム

- 13:00～13:10 オリエンテーション
- 13:10～13:25 「2020年のFDの論点と課題」 中井俊樹
- 13:25～13:50 「芝浦工業大学のFDの取り組みと展望」 榊原暢久
- 13:50～14:15 「愛媛大学のFDの取り組みと展望」 竹中喜一
- 14:15～14:25 休憩
- 14:25～14:50 「大阪大学のFDの取り組みと展望」 佐藤浩章
- 14:50～15:15 「外部機関を活用したFDの取り組みと展望」 桑木康宏 濱野彰彦
- 15:15～15:25 休憩
- 15:25～16:00 質疑応答・総合討論

< zoomサポート：鈴木洋 芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター事務課長 >

講師紹介



佐藤浩章
日本高等教育
開発協会 会長
大阪大学 准教授



中井俊樹
日本高等教育
開発協会 副会長
愛媛大学 教授



榊原暢久
日本高等教育
開発協会 理事
芝浦工業大学 教授



竹中喜一
日本高等教育
開発協会 正会員
愛媛大学 講師



桑木康宏
株式会社 学びと成長
しくみ デザイン研究所
代表取締役



濱野彰彦
株式会社 学びと成長
しくみ デザイン研究所
取締役

参加申し込み

本セミナーは ZOOM によるオンライン形式で開催します。オンライン参加が可能であることをご確認の上で、次のURLよりお申し込みください。申込された方に参加方法を後日お知らせします。

お申し込み

<https://www.jaedweb.org/event>

不明点に関する
お問い合わせ

info@jaedweb.org



JAED
日本高等教育開発協会

日本高等教育開発協会は、高等教育開発者同士の連帯を図りつつ、高等教育開発に関する活動を実践することを通して、日本の高等教育機関の教育と学習の質の向上に貢献することを理念としています。あわせて高等教育開発者としての実践の質を高め、学術研究に裏付けられた専門性を向上させる場となることを目的とします。

<https://www.jaedweb.org>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規

平成18年5月10日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構（以下「機構」という。）に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）を置く。

(目的)

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）の指示のもと、愛媛大学（以下「本学」という。）の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、教育企画室に次の各号に掲げる教育研究部門（以下「部門」という。）を置く。

- (1) 教育・学習支援部門
- (2) 教育調査・分析部門
- (3) 学生能力開発部門

(業務)

第4条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
- (3) 授業評価及びシラバスに関すること。
- (4) 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
- (5) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
- (6) 教職員能力開発拠点事業に関すること。
- (7) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

(組織)

第5条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員
ア 教育企画室に配属された機構の専任教員
イ 機構の専任教員（アを除く。） 若干人
ウ 本学（機構を除く。）の専任教員 若干人

2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

3 副室長は、本学の専任教員のうちから、機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

4 室員のうちイの者は機構長が指名し、ウの者は機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

5 副室長及び室員（アを除く。）の任期は1年とし、再任を妨げない。

(職務)

第6条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

2 副室長は、室長の職務を助ける。

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

(共同利用運営委員会)

第7条 教育企画室に、第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、共同利用運営委員会を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(研究員)

第8条 教育企画室に、研究員を置くことができる。

2 研究員は、教育企画室の業務に従事する。

3 研究員は、本学の職員のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

(教育支援員)

第9条 教育企画室に、教育支援員を置くことができる。

2 教育支援員は、教育企画室の業務に参画する。

3 教育支援員は、他の大学、地方公共団体、民間企業等（以下「他の大学等」という。）の者のうちから、室長が推薦し、機構長がその者が所属する他の大学等の長の承認を得て、委嘱する。

(共同利用)

第10条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育、研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第11条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第12条 この内規に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年5月10日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成20年4月23日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年3月23日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年9月19日から施行する。

愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項

平成23年3月9日
制 定

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規第8条に基づき、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定を受けた愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室、以下「拠点」という）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（資格の名称）

第2条 資格の名称は、「スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（Staff Development Coordinator）」（以下「SDC」という。）とする。

（資格の認定）

第3条 SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、自らの業績等を記録したポートフォリオ（スタッフ・ポートフォリオ、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオと呼称されるものをいう。）を別紙様式1のSDC認定申請書とともに提出した者に対して、拠点が別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、第4条に規定する資格認定委員会による書類審査及び面接審査に合格し、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が認定した者に授与する。

（資格認定委員会）

第4条 別紙様式1のSDC認定申請書が提出されたときは、資格認定の審査を行うため、資格認定委員会を設けるものとする。

2 資格認定委員会は、拠点の代表者が指名する者をもって構成する。

3 資格認定委員会に委員長を置き、前項に規定する委員の中から拠点の代表者が指名する。

（資格認定・授与原簿）

第5条 SDCを認定し授与したとき、及び第7条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3の愛媛大学教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

（資格認定証書の再交付）

第6条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を行うことができるものとする。

（資格の取消し）

第7条 SDCを授与された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

（事務）

第8条 SDCの認定に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

（雑則）

第9条 この要項に定めるもののほか、SDCの認定に関し必要な事項は、拠点の代表者が別に定める。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年8月17日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年5月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年7月3日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年6月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年6月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年7月6日から施行する。

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. 高等教育機関のスタッフ・ディベロップメントの推進に対する意欲と展望を有していること。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得していること。
3. 高等教育機関における職員人材育成ビジョン^{※1}を構築・支援するための手法を修得していること。
4. スタッフ・ポートフォリオ^{※2}を作成する職員に対するメンター経験を有していること。
5. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有していること。

※1 職員人材育成ビジョンとは、各機関において職員を育成していくための理念等を明文化したものであり、各機関固有のものをいう。

※2 スタッフ・ポートフォリオとは、SPODが開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規

平成22年3月23日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規（以下「教育企画室内規」という。）第7条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室内規第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長 1人
- (3) 教育学生支援部長
- (4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことはできない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成22年 4月21日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規第12条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第3号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長が指名する。

(議長)

第4条 共同利用推進会議に議長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する教育企画室副室長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 共同利用推進会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

附 則

この内規は、平成22年4月21日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年5月15日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

共同利用運営委員会委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
近藤 理	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
榊原 暢久	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター 教授	第4号委員
中島 英博	名古屋大学教育基盤連携本部／高等教育研究センター／大学院教育発達科学研究科 准教授	第4号委員
竹山 優子	筑紫女学園大学大学総務部 (SD/FD/IR) 企画主幹	第4号委員
小林 功英	日本私立大学協会広報部 編集係長	第4号委員

共同利用推進会議委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
仲道 雅輝	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師	第3号委員
近藤 理	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
織田 隆司	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
米田 健	愛媛大学総務部人事課長	第6号委員



令和3年3月 発行

発行 教職員能力開発拠点
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL.089-927-8922 (FAX兼用)
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

印刷 セキ株式会社